

令和6年度 ESD 推進校 実践のまとめ



多摩中学校



東寺方小学校



多摩第一小学校



多摩中学校区





【目次】

令和6年度 多摩中学校区 取組概要 6

【各校の実践】

□多摩市立多摩中学校 7

「職場体験で得られた経験から理想の
社会人像を考える」



□多摩市立多摩第一小学校 9

「わたしたちの多摩川」

多摩川をよりよくするために
自分たちにできることを考え
やってみよう



□多摩市立東寺方小学校 11

「ひのきの森プロジェクト～地球にやさしいエネルギー～」



□成果と課題 13

令和6年度 ESD推進校 取組概要



1 取組方針

「持続可能な社会の創り手」を育成するためにESDで育てたい力として中学校区で共通の資質・能力を掲げて、小学校の学びが中学校につながり、中学校の学びがその先につながるよう教育課程の改善を図る。また、教育課程にSDGsを位置付け、教科等や小・中学校の年間を見渡し、学校種横断的に幅広くSDGsを踏まえた教育活動を地域とも協働して展開し、SDGsへの児童・生徒の意識を高める。

2 取組設定の理由

自分たちが住む地域の社会や環境を中心とした課題など、身近なところから主体的・対話的に取り組むことにより、課題解決につながる新たな価値観や行動のアウトプットを生み出し、持続可能な社会の創造に主体的に関わっていくことのできる児童・生徒の育成を目指す。

3 ESDを通して育成する資質・能力

- 【知識・技能】情報を取得し、分析、活用する能力
- 【意思・態度】自己調整力・合意形成し協力・協働する態度
- 【探究する力】地域や社会の活動に参加する力（社会参画力）
- 【思考力】論理的な思考力（順序立てて考える力）

4 実践のポイント

多摩第一小学校では生活科や総合的な学習の時間で、身の回りの自然環境や人々と直接関わる体験活動を重視し、自分事として課題に取り組む学習を展開している。各教科等の中で、互いの考えを交流し合う機会を設け、今までとは違うものの見方に気付かせたり、新しい発見をさせたりしている。

東寺方小学校では、育成する資質・能力に焦点を当て、具体的な手だてをとることに取り組んでいる。総合的な学習の時間や生活科で生かされたり培われたりする資質・能力と、教科の中で育てたり活用されたりする資質・能力を関連させ、教科等横断的に「持続可能な社会づくり」のために、児童ができることを考えさせている。

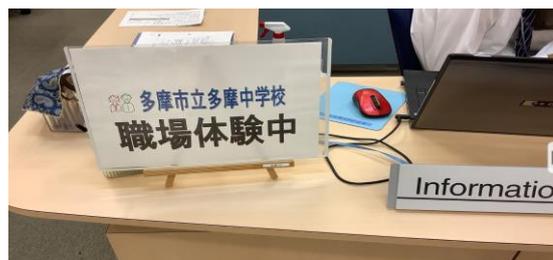
多摩中学校では、小学校での取組を受けて、身近な地域から段階的に、多摩市、東京、日本、と視野を広げていけるような取組を設定した。地域や社会との関わりを大切に、主体的に課題解決に向けて取り組み、体験を通して学ぶことを通して、生徒たちが自らできることを考え、課題解決のために行動するという取組を行った。

1 単元名(教科・領域)・学年

「職場体験で得られた経験から理想の社会人像を考え学校生活で実践しよう」(総合的な学習の時間)・第2学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 職業への理解を深め、自分の未来像を予測し、その実現に向けた計画を立てる力
- 多様性や平等への理解を深め、持続可能な社会の創り手として「グローバル」な視点で考え、行動できる力



3 単元の目標

- (1) 働くことへの理解を深め、職業に対する関心を高める。
- (2) 様々な人との交流を通して、課題を発見し、より良い社会を目指して考えたり、行動したりすることができる。
- (3) 職場体験で得られた経験から、理想の社会人像を見だし、今後の学校生活でどのように生かすかを考え、実践する。

4 単元計画の概要【全25時間】

(1) 職場体験の概要「働くとは」



(2) ハローワークによるマナー講習



(3) 職場体験当日



(4) レポート作成及び発表



5 授業の紹介【職場体験のまとめ・レポート発表 第23~25時】

(1) 本時の目標

- ア 職場体験3日間を通じて体験したことを分かりやすくまとめ、発表する。
- イ 事業所の魅力を分かりやすく多くの人に発信するためのキャッチコピーを考える。
- ウ 理想の社会人像を見だし、その中で自分が身に付けるべきことを考え、学校生活で実践する。

(2) 授業の展開

導入

魅力的なキャッチコピーを考える 1

展開

① 事業所での仕事内容や得られた経験を職場体験のしおりにまとめる 2

② 職場体験のしおりに書き込んだ内容を参考に、iPadを用いてレポートを作成する 3

③ 作成したレポートをクラス内で発表する 4

まとめ

職場体験の経験から、理想の社会人像を考え、その内容をクラスで可視化する 5

「笑顔と未来を咲かせる場所」

〇〇保育

知の宝石箱

〇〇図書館

学校とも家とも違うhotな場所

〇〇児童館

（従業員の）
親切さ、仲の良さ、安さが1番！

食品スーパー〇〇店



2



3



4



5

6 本単元を通して得られた成果と課題

□ 児童・生徒の学習の評価（意見・感想等）

- ・体験を通して、お客様からは見られない裏の仕事がたくさんあって、仕事の大変さを知り、やりがいを感じた。
- ・お客様に気持ちよく利用してもらうために、笑顔で挨拶することがとても大切だと改めて感じた。
- ・言われたことだけをやるのではなく、常に周りに気を配り、自分から積極的に行動することが大切だと分かった。
- ・今後はコミュニケーションを大切にするために、自分から挨拶をすることを心掛ける。

(1) 成果

事業所の魅力的なキャッチコピーを考えることで、より豊かな発信力を身に付けた。理想の社会人像を見だし、それを実現させるために、学校生活で取るべき行動を考え、実践することができた。

(2) 課題

他学年の生徒に対し、発信する機会を設け、更に豊かな発信力を身に付けていく取組が必要である。

1 単元名(教科・領域)・学年

「わたしたちの多摩川」(総合的な学習の時間)・第4学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 多面的、総合的に考える力
- コミュニケーションを行い他者と協力する力

3 単元の目標

- (1) 多摩川について興味をもち、自ら決めた課題の解決に向けて進んで追究することができる。
- (2) 自分が設定した課題について見通しをもち、必要な情報を収集し、整理・分析して解決に向かうことができる。
- (3) 学んだことを振り返り、持続可能な社会づくりに向け、これからの生活に生かそうとする。



4 単元計画の概要【全70時間】

- (1) 身近な環境に目を向けよう。
多摩川を散策し、興味・関心のあることを見付ける。



- (2) 多摩川で調査しよう。
自分たちの将来と環境問題を結び付けて、地域の方の方の願いや思いを聞き、今どんなことができるのか考える。



- (3) 多摩川を調査しよう。
同じ研究テーマのグループと、課題に関する資料や情報を集め、調査を行う。



- (4) 考えたことを実行しながら、より良い方法を考えよう。

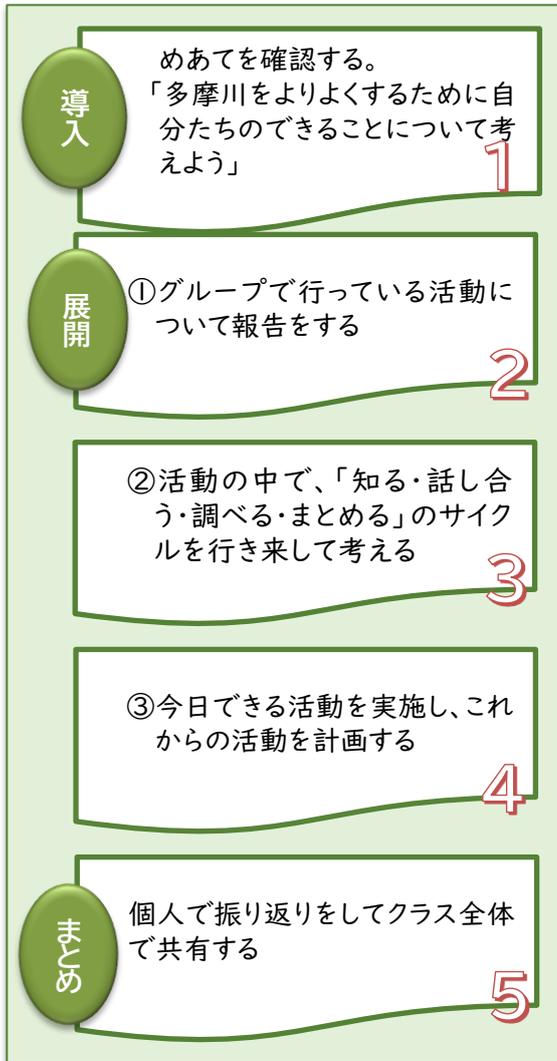


5 授業の紹介【今何ができるかを考える 第56時】

(1) 本時の目標

- ア 「多摩川をよりよくするために、自分たちにできること」について話し合う。
- イ 自分たちにできる取り組みを考えたり、まとめたりして実行計画を立てる。

(2) 授業の展開



6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

- ・多摩川のガサガサ体験で、絶滅危惧種のレンリソウを見つけてうれしかった。葉っぱを触ると、ミントの匂いがする植物もあってびっくりした。
- ・多摩川に鳥を見に行ったら、学校の周りに結構いてびっくりした。天気や気温で何がかわるのか調べてみたい。
- ・ゴミ拾いをすると、あまり目立たない所にいっぱいあることが分かった。多分、バレたくないのかもしれない。
- ・公園や道路にあるゴミでも、雨に流されると水路から川につくから、海にも流れていっちゃう。

(1) 成果

「多摩川の現状を知る⇨どんなことができるのか話し合う⇨実践してみて振り返る⇨どうまとめるか話し合う⇨どう発信するか話し合う」活動を繰り返すことが思考の連続につながった。

(2) 課題

学校外での活動が多く、天候によって活動が制限されることがあった。

1 単元名(教科・領域)・学年

「ひのきの森プロジェクト～地球にやさしいエネルギー～」
(総合的な学習の時間)・第6学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 自分と向き合い粘り強く取り組む力
- 学んだことを社会の中で活用する力
- 必要な情報を選択できる技能
- 様々な情報を結び付けて多角的に考える力
- 自分の考えを広めたり深めたりする力

3 単元の目標

- (1) 自然と自らの関わりに着目し、気候変動とエネルギーについて調べ、持続可能な社会づくりに向けて自分のできることを考え実行する。
- (2) SDGsとの関連に着目し、生涯にわたって自然環境やエネルギー問題について考えていこうとする意識を育てる。



4 単元計画の概要【全45時間】

(1) 移動式「えねこや」体験

再生可能エネルギーの発電や、蓄電、断熱のしくみなどを知り、体験した。



(2) 話し合い活動

「えねこや」体験や、専門家のお話などを聞いた体験から、試してみたい発電方法を話し合った。



(3) 再生可能エネルギーの発電

太陽光、風力、水力、バイオマスなど、様々な発電方法について試行錯誤しながら蓄電した。



(4) イルミネーション点灯式での地域の方への発信

地域の人に向けて、自分たちで考えたメッセージを伝えた。



5 授業の紹介【自分たちで考えた発電方法を試そう 全20時間】

(1) 本時の目標

- ア 自然を生かした再生可能エネルギーの発電を調べる。
- イ 調べた方法で自然を生かした発電に取り組むことができる。

(2) 授業の展開

導入	インターネットや本を活用し、発電方法を調べる。	1
展開	発電に必要な材料をそろえる。	2
	様々な材料を工夫して発電を試す。	3
	うまくいかなかった原因を調べ、修正して発電し、蓄電池に貯めていく。	4
まとめ	蓄電した電気の活用方法を考える。	5



2



3



3



4



4



4

6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

- ・何気なく使っていた電気だったが、自分で発電に挑戦し、その難しさを実感したので、より大切に使うようになった。
- ・発電方法について調べたことで、今の日本の発電の7割をしめる火力発電を続けてはいけなことが分かった。また、気温の変化にも敏感になり、今まで気付かなかったことや見えなかったことが見えるようになった。
- ・多摩市がエコ活動や地域清掃などの取組をしていることに気付いた。できるときには参加しようと思った。

(1) 成果

再生可能エネルギーの発電に取り組み、自分ができることについて考え、取り組むことができた。気候変動の問題への意識を高めることができた。

(2) 課題

外部機関との連携や活動時間の十分な確保により、より充実した活動へとつなげることや、発電した電気を実生活への活用につなげることが課題である。

ESD推進校の成果と課題



1 各学校の成果と課題

□多摩中学校

【成果】

- ESDを通して育成する資質・能力の段階表の達成を目指し、自ら課題を設定したり、課題解決のため情報を取得、分析、活用し、対話や協働を通してまとめたりすることによって、より深く課題を意識する取組を行った。
- SDGsを意識した学習テーマについて発達段階に応じて取り組ませたことにより、自分たちの身近にある課題への意識を高めることができた。
- 地域学校協働本部を始め、地域や保護者の方々の協力を得た創意・工夫ある取組により、課題を自分事として捉え、実践につなげていく機会となった。

【課題】

- 課題解決の方法を、自らの行動につなげていくために、全校生徒の意識調査の結果等も踏まえて、学校としての取組等を考え、発信することまではできなかった。学んだことを基に、実際に地域社会の中で行動することにつなげていくところまで取り組んでいく必要がある。

□多摩第一小学校

【成果】

- 児童が住む地域の社会や環境を中心とした課題を入り口としたことで、身近で考えやすく、取組内容の充実につながった。
- 各学年の総合的な学習の時間の指導内容が、各学年での発展的な学習につなげることができるよう組み立てることにより、「課題設定」「情報収集」「整理分析」「まとめ・表現」の深化につながった。
- 実際の体験（現場に赴く、専門家の話を聞く）をすることで、課題を自分事として捉えることができた。

【課題】

- 児童の課題内容によってグループが形成されるため、すべてのグループの課題を体験的な活動を通して解決できるよう学習の場を設定していくことが難しかった。
- 表現をすることが大切なため、教科単元をつなぐカリキュラムマネジメントをさらに充実させ、自分の考えや意見を言葉や文章で表現させる機会を増やしていくことが必要であった。

□東寺方小学校

【成果】

- 再生可能エネルギーについて関心をもち、自分たちにできる発電の方法を考えて取り組むことができた。
- 自ら発電した電力を基に駅前イルミネーションの点灯を行ったことで、クリーンエネルギーの活用について意識を高め、地域にも発信することができた。
- 気候変動について、問題意識を主体的にもつことができた。

【課題】

- 外部機関との連携や、活動時間の十分な確保を行い、発電した電気を活用する活動をより充実したものにしていけるようにしていくことが課題である。



2 中学校区の取組の成果と課題

【成果】

- ESDを通して育成する資質・能力の段階表も踏まえ、9年間のつながりや小中学校間の連携を意識した取り組みを行うことができた。特に、中学校段階では、小学校段階での学びの成果を社会の中で応用・発展させていく意識をもち、取り組むことができた。
- 学習テーマについて課題を身近な事として捉え、課題解決に向けて仲間と共に協力し考え、工夫して実践することができた。
- SDGs に関連する自分たちが抱える今後の課題や新たな発見が多くあり、学習テーマ以外の様々な課題にも目を向ける機会になった。

【課題】

- ESDを通して育成する資質・能力の段階表を意識した創意工夫ある取り組みを継続して実践していく。
- 各学校で取り組んでいる内容や実践の結果を毎年度共有し、次年度以降の課題設定や実践に向けて改善をしていく。
- 様々な視点から課題に取り組み、より主体的な学びになるような取り組み方の工夫や発信の場を多く設ける。

3 次年度以降の取り組みについて

○小中連携したESDの推進

- ・タブレット端末を活用し、学校全体で取組を共有したり、小中学校の互いの取組について交流したりする機会を設けて、相互理解を深めていく。
- ・一部の児童・生徒のみの交流や意見交換だけでなく、より多くの生徒が関わり意見交換できるような機会を設ける。
- ・小中連携事業を通して、各学校のESDの取組への理解を促進する。
- ・各教科等で取り組んでいるESDに関する具体的な内容を共有し、小中学校のつながりをより明確にしていく。

○SDGsを踏まえたESDの推進

- ・児童・生徒が授業内容と関連する SDGsの項目を意識しながら取り組むことができるように、学校内にSDGsの17の目標を掲示するなどして関連を示していく。

○「多摩市子どもみらい会議」の充実

- ・未来の多摩市や自らの生活につながるものだと実感できる機会になるようにする。
- ・実際に児童・生徒が議論し合うことにより、新たな視点での課題解決へのきっかけとなるようにする。
- ・小中合同で未来について話し合うことにより、児童・生徒の考え方や意識が変わるような発表の機会を毎年度、設定する。



～令和6年度多摩市子どもみらい会議に参加した各小学校の代表児童の感想～

□多摩第一小学校

自分たちの意見とは異なった意見を知ることができたので、学習を進めてきた環境問題や地域との関わりについての考えが深まりました。そして自分たちの意見と他の学校から出た意見を合わせられたので、より良い提案を出すことができたと思います。最初は緊張していましたが市役所の方や中学生などが寄り添ってくれたので、リラックスして会議に取り組むことができました。この多摩市子どもみらい会議のおかげで、協力して話し合いをしていく大切さが分かりました。この経験を4月からの中学校生活に生かしていきたいと思います。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

□東寺方小学校

(この活動を通して分かったこと)

○電気という資源の大切さ

今まではそこまで地球温暖化は脅威ではないと思っていたけど、去年の猛暑や全国各地の雪害等、現状の恐ろしさを知り、SDGsの大切さを実感した。このままではいけないと思うので、えねこやで学んだことを生かし、節電、節水を心がけて、もっと電気という資源を大切にしたいと思った。そして、この学びを家族や周りの人たちに伝えていきたいと思いました。

○発電の難しさ

最初は簡単だと思っていたけど、実際にエネルギーを作ると想像以上に難しかった。私のチームも3回失敗した。他のチームもたくさん失敗していたので「火力発電ではなくて、再生可能エネルギーを使おう」と簡単に言ったけれど、エネルギーを作ることがどれほど難しいことかよく分かりました。いろいろなところにソーラーパネルがある多摩市はすごいなと思いました。

令和6年度 ESD 推進校 実践のまとめ



聖ヶ丘中学校



聖ヶ丘小学校



連光寺小学校



聖ヶ丘中学校区





【目次】

令和6年度 聖ヶ丘中学校区 取組概要 18

【各校の実践】

□多摩市立聖ヶ丘中学校 19

「誰もが安心して住み続けられるまち、多摩市
～年齢や障がいの有無にかかわらず参加で
きる共生社会の実現を目指して～」



□多摩市立連光寺小学校 21

「未来にやさしいエネルギー」



□多摩市立聖ヶ丘小学校 23

「未来の聖ヶ丘」



□成果と課題 25

令和6年度 ESD推進校 取組概要



1 取組方針

人・自然・社会に関心を高め、グローバル化に対応しながら、協力して「持続可能な社会」を形成しようとする児童・生徒を育成する。そのために、小学校から中学校までの連続した9年間の義務教育において、発達段階に即した ESD の取組を通して、効果的に3校が共通して求める資質・能力を育む。

2 取組設定の理由

聖ヶ丘中学校区では、ESD を通じて身に付けさせたい資質・能力を小中学校で統一し、9年間の義務教育における ESD の取組でのゴールが明確になるよう、これまで努めてきた。ESD を通じて身に付けさせたい資質・能力を統一させることで、小学校1年生から中学校3年生まで、各学年の発達段階に応じた課題設定・取組が可能になると考える。そうすることで、連光寺小学校、聖ヶ丘小学校、聖ヶ丘中学校それぞれが、これまでの長い歴史の中で培ってきた学校独自の特性等も生かしつつ、総合的な学習の時間や生活科を中心にして、効果的に児童・生徒に身に付けさせたい資質・能力を育むことができると考えた。

3 ESDを通して育成する資質・能力

【知識・技能】情報を取得し活用する能力

【意思・態度】環境や社会に関心をもち、意欲的・主体的に取り組む態度

【探求する力】コミュニケーション能力（伝え合う表現力）

【思考力】内省的な思考力（考えを深める力）

4 実践のポイント

【聖ヶ丘中学校】

「誰もが安心して住み続けられるまち、多摩市～年齢や障がいの有無にかかわらず参加できる共生社会の実現を目指して」をテーマに、都立多摩桜の丘学園との交流、ブラインドサッカーの体験学習、防災訓練、また生徒会主催による地域清掃など、体験学習を通じて主体的に行動できる生徒を育成する。

【聖ヶ丘小学校】

「自然・人・社会」との共生をテーマに、SDGsの視点を取り入れ、各教科等で学んだ知識や技能を活かして、生活科や総合的な学習の時間で探究活動を行う。児童にとって身近な問題から課題を見だし、自分事として解決方法を考え、主体的に学び実践しようとする態度を育成する。

【連光寺小学校】

児童が6年間の生活科・総合的な学習の時間を通して、地域の人・自然・社会と関わりながら問題解決的な学習を行い、環境や地域社会のために行動することの大切さを学ぶ。そして、主体的な思考過程を積み重ねる探究活動を繰り返し行うことを通して、環境や社会に関心をもち、意欲的・主体的に取り組む態度を育成する。

1 単元名(教科・領域)・学年

「誰もが安心して住み続けられるまち、多摩市～年齢や障がいの有無にかかわらず参加できる共生社会の実現を目指して～」(総合的な学習の時間)・

第1学年・第2学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 情報を取得し活用する能力
- 環境や社会に関心を持ち、意欲的・主体的に取り組む態度
- コミュニケーション能力(伝え合う表現力)
- 内省的な思考力(考えを深める力)

3 単元の目標

- (1) 都立多摩桜の丘学園との交流を通して、障がい者への理解を深め、同じ地域に住む一員として共に生きていく意識を高める。(1年生)
- (2) 災害発生時に自分の身を守るすべを考え、地域の一員として行動できる態度を育てる。(2年生)
- (3) 共生の精神を育み、身の回りの高齢者や障がい者の力となれる態度や資質を育む。(2年生)

4 単元計画の概要【1年生12時間、2年生20時間 全32時間】

- (1) 都立多摩桜の丘学園とのオンラインやポッチャ、マラソン大会などの交流を通じて、お互いの違いを個性として捉え、大切に思う気持ちをもつことができた。(1年生)
- (2) 障がい者の立場に立った学校バリアフリー化案作成で課題を見つけ、課題解決のために資料や情報を集め、自分の意見や考えをまとめ、発表した。(2年生)
- (3) 防災訓練(救命講習・消火訓練)の体験学習を通して、災害発生時に地域社会の一員として実践しようとする気持ちが高まった。(2年生)
- (4) 「聖中版多摩市子どもみらい会議」を実施し、意見交換をして「誰もが安心して住み続けられるまち、多摩市」についてクラスメッセージを作成して発表した。(2年生)



5 授業の紹介【今何ができるかを考える 第19~22時】

(1)本時の目標

- ア 誰もがともに生きる社会を目指し、校舎内外でのバリアフリーを見つける活動や、ブラインドサッカーの体験学習を通して「障がい」への理解を深める。
- イ 福祉に関する体験学習を通じて、課題点、改善点を探し、自分たちにできることについて考える。

(2)授業の展開

導入 1
 聖中のバリアフリーについて、校舎内を周って良い所、課題点、改善点を探す。

展開 2
 ① 実地踏査で見つけた内容を整理し、分析して、聖中バリアフリー化案のスライドを作成する。

3
 ② クラス内で、班ごとに聖中バリアフリー化案の発表を行い、理解を深める。

4
 ③ ブラインドサッカー体験を通して、視覚障がいへの理解を深め、多様性について学ぶ。

まとめ 5
 聖中バリアフリー化案作成とブラインドサッカー体験を通して、私達にできることについて考える。

東門 階段

《良い点》
 ・ 手すりがある
 ・ 幅が広い

《問題点》
 ・ 点字ブロックがないため、階段に気付けない
 ・ 階段の傾斜が急
 ・ 車椅子のためのスロープがない

《改善点》
 ・ スロープがあった方がいい
 ・ 急すぎる階段は危ない




福祉についての学習を通して

これからは周りを広く見て
 快適に安全に過ごせる様に
 協力していきたい



3 持続可能な社会を創る
 ハンデを持つ人たちの世界
 に目を向けて思いやりで
 成り立つ世界にしていきたい

6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

・バリアをフリーにすることは、人を助けるだけの行為ではなく、共に歩いて行こうという希望のメッセージだと思いました。バリアフリーのおかげで、障がいのある人たちも人の役に立て、自分も必要とされているという気持ちになれると思いました。

・校内でバリアフリーを探して、車いす用のスロープや誰でもトイレの簡易ベッドなどがあり驚きました。緊急時に対応する知識をもって、この課題に取り組んでいきたいと思いました。

・ブラインドサッカーの体験でアイマスクをし、視覚障がい者の不安がよく分かりました。今後視覚障がい者に出会ったら、声をかけ、点字ブロックを妨げているものがあれば移動をして、少しでも快適に安全に過ごせるよう協力していきたいです。

(1)成果

- ・生徒が積極的にバリアフリー実地踏査や、情報収集を進めていく中で、「障がい」への理解を深めることができた。
- ・実際に視覚障がいのある人と同じ体験をし、体験から学んだことを生かして、自分たちに何ができるかを考えることができた。

(2)課題

- ・次のステップとして実際に学んだことを生かして、地域で率先して行動できるかどうか課題である。

1 単元名(教科・領域)・学年

未来にやさしいエネルギー・第6学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 情報を取得し活用する能力
- 持続可能な開発への価値観
(よりよい環境や社会づくりへの意思)
- 思いを発信する力
- 創造する力(新たに生み出す力)

3 単元の目標

- (1)地球が抱える様々な問題について課題を見付け、テーマを設定する。
- (2)課題解決に向けて、情報収集し、効率の良い「再エネ発電」を行った結果をまとめる。
- (3)自分たちの取組を地域や校内児童に向けて、思いが伝わるようにプレゼンテーションを行う。

4 単元計画の概要【全70時間】

(1)「SDGsってなんだろう」

- ・SDGsと関連付けながら、世界が抱える問題について考えをもつ。



(2)「ストップ地球温暖化

再生可能エネルギー大作戦」

- ・様々な発電方法のメリット・デメリットを知り、それを基に未来のエネルギーについての考えをもつ。
- ・どのように電気が作られているかを調べ、再生可能エネルギーについて実験・発電・蓄電し、まとめる。

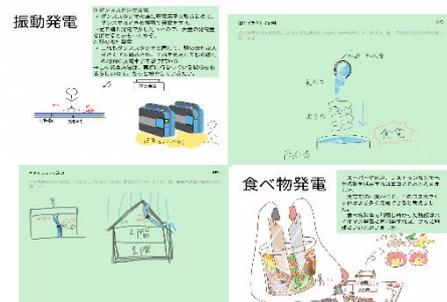


- ・発電した電気を利用して、聖蹟桜ヶ丘駅前イルミネーションに参加。



(3)「SDGsから見つめる 私たちの未来」

- ・世界に様々な課題があることを知り、自分たちに何ができるか考え、実行した。



5 授業の紹介【未来にやさしいエネルギー 全70時間】

(1)単元の内容

- 第一次 「SDGsってなんだろう」 8時間
- 第二次 「ストップ地球温暖化再生可能エネルギー大作戦」 40時間
- 第三次 「SDGsから見つめる私たちの未来」 22時間

(2)授業の展開

導入

第一次「SDGsってなんだろう」
SDGsについて学ぶ 1

展開

第二次「ストップ地球温暖化
再生可能エネルギー大作戦」
様々な発電方法を学ぶ
調べ学習 +
◎太陽光発電の出前授業
◎地熱発電の出前授業
◎水力発電(ダム)の見学 2

発電方法を選び、発電の実験に
取り組み、よりよい発電に必要な
ことは何か考える 3

まとめ

第三次「SDGsから見つめる私
たちの未来」
実験に取り組んだ発電方法を、
「電気の地産地消」を目指してど
う生かしていくか考え、提案する 4



6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

・みんなが少しずつでも自分にできることに取り組んでいけば、様々な発電方法を社会の中に取り込んでいくことができるので、「協力する」ことが大切だと感じた。

・廃棄される予定の食べ物などを使って発電すれば食品ロスの問題の解決にもつながるので、未来にやさしい方法を考えることは、SDGsの達成につながっていくということを実感することができた。

(1)成果

- ・電気の重要性を再確認すること、発電のための工夫や努力を理解することができた。
- ・効率の良い発電方法を考える中で、物事を横断的に考えたり多角的に捉えたりする姿勢が高まった。

(2)課題

発電方法ごとの効率の差異により、生活への取り組みを考える段階で、考察できる具体性や多様性に違いがあり、同レベルでの提案にまとめることが難しかった。

1 単元名(教科・領域)・学年

「未来の聖ヶ丘」(総合的な学習の時間)・第6学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 自分の住むまちへの興味・関心を深め、課題を見つけ、解決策を自ら考え行動する力
- グループで協力し、意見交換を行いながら、課題解決に取り組み、多様な考えを尊重する力

3 単元の目標

- (1)自分の住むまちの魅力や課題を発見し、その解決に向けて具体的な計画を立てる。
- (2)ブラスバンド活動を通して、地域の人々と交流し、地域の一員としての自覚と責任をもつ。
- (3)グループごとに課題解決に向けて主体的に取り組む。

4 単元計画の概要【全70時間】

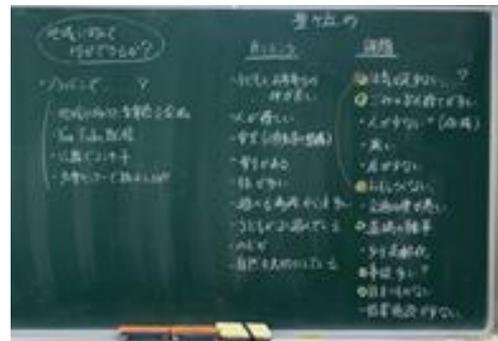
- (1) 学校の伝統であるブラスバンドの歴史や活動内容について知る。



- (2) 地域の方と関わったり、イベントに参加したりして、地域への貢献について考える。



- (3) 地域の一員として、自分にできることを考え、課題解決に向けて情報を収集する。



- (4) 先輩たちが築き上げてきた伝統を大切に、5年生に引き継ぐ。



5 授業の紹介【未来の聖ヶ丘のためにできることを考える 第50時】

(1) 本時の目標

- ア 自分の住むまちについてすすんで話し合うことができる。
- イ 各グループの意見を共有し、課題を多面的・総合的に捉えることができる。

(2) 授業の展開

導入

自分の住むまちの魅力や課題について確認する。

1

展開

① 課題に対する取組をグループごとに話し合う。

2

② グループで話し合った内容を黒板に掲示し報告する。

3

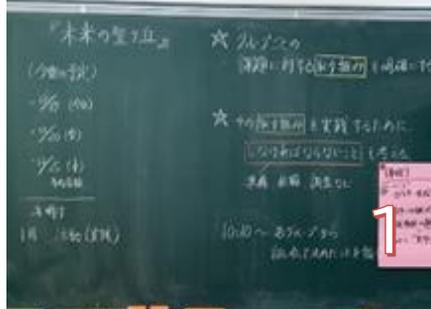
③ 実践するためにどのような準備や調査が必要かをまとめる。

4

まとめ

次時に向けて、計画を立て見直しをもつ。

5



6 本単元を通して得られた成果と課題

□ 児童・生徒の学習の評価（意見・感想等）

- ・ 学校の伝統であるブラスバンドの活動を通して、下級生がぼくたちの演奏を楽しみにしていることや、地域の方が応援してくれていることを知ることができてよかった。
- ・ 感謝の気持ちをこめて「ありがとうのコンサート」を計画し、地域の方々等への招待状を作成したり、演奏する曲を選んだり、みんなで協力して取り組むことができた。
- ・ 聖ヶ丘の魅力について話し合う中で、改めて自分の住むまちの魅力や素晴らしさについて気付くことができた。
- ・ これからも、自分の住むまちを大切にしたいと思った。

(1) 成果

地域の魅力を発見し、貢献したいという思いから、地域の方々との交流を積極的に行うことができた。多くの出会いを経て、地域への愛着が深まり、地域の一員としての自覚と責任感を育むことができた。

(2) 課題

地域のために自分ができることとして出された児童のアイデアが、実現可能か判断することが難しく、繰り返し話し合う必要があった。



ESD推進校の成果と課題

1 各学校の成果と課題

□聖ヶ丘中学校

【成果】

- 課題設定、情報収集、整理分析、まとめ・発表という流れで、生徒自らが主体的に障がい者の立場にたった学習を進めていく中で、実際に起きている問題を自分事としてとらえることができるようになった。
- 福祉や防災に関する探究学習や体験学習、話し合い活動等の取組を通して、暮らしやすい町について考え、多摩市の住民として、地域のために行動しようとする意欲が高まった。

【課題】

- 1年生では多摩市に関する地域学習、2年生では鎌倉などの校外学習、そして3年生では奈良、京都方面の修学旅行の取組を通じて、ESD の取組を学び、多摩市と比較しながら、今後の地域発展に生かしていけるよう、ESD の計画を見直していく。
- 次のステップとして、多摩市で実際に災害が起きた時や高齢者や障がいがある人たちなどが助けを必要としている時に、率先して行動できる生徒を育成するため、生徒がより主体的に学習活動に取り組んでいくよう計画を見直していく。

□連光寺小学校

【成果】

- 連光寺の周りの環境を生かした活動を多く取り入れ、どの学年も特色ある学習ができた。
- 生活科・総合的な学習の時間を中心として、探究活動を繰り返し行い、学びのサイクルを提示することで、様々な視点から気付きや問題を捉えることができ、探究学習の意識が高まった。
- 単元計画の節目で SDGs を振り返らせたり、学びと目標を照合するといった具体的な授業展開例を提示してきたりしたことで、連光寺小学校での ESD 教育が SDGs と結びついているという認識や実感を、児童にもたせることができた。

【課題】

- 全体の計画、年間計画のさらなる充実を目指していく。児童の学習が充実するためには、学習計画を毎年検討し、効率的・重点的に行う活動を精査していく必要がある。
- 学習してきたことから芽生えた課題意識や思いを高めていくだけでなく、それに対して自分たちにできることを見つけ、行動することができる力の育成を今後は目指していく必要がある。

□聖ヶ丘小学校

【成果】

- 体験活動や地域との関わりを通して、自分たちの住むまちの良さについて気付くことができた。
- 児童を主体とした学習活動にするために、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のプロセスを繰り返し探究していくことができた。
- 一人一人の思いや願い、気付きを大切に言葉かけを意識することによって、児童の活動を価値付けることができた。

【課題】

- 話し合い活動では、「何のために、どういう話し合いをしているのか」を明確にしていくために、他教科でも経験を積む必要がある。
- 児童の取組を実現するためには、学校だけではなく、地域や行政機関など様々な機関との連携が必要になる。



2 中学校区の取組の成果と課題

【成果】

- ESD を通じて身に付けさせたい資質・能力を統一させたことで、小学校1年生から中学校3年生まで、各学年の発達段階に応じた課題設定・取組が可能になり、活動を充実させることができた。
- 各校が地域の特性を生かした取組を学習に設定したことで、児童・生徒が主体的に探究活動に取り組んでいくことができた。
- 各校の ESD の取組は、持続可能な社会に向けての具体的な提案につなげることができるといふことを、児童・生徒が実感することができた。

【課題】

- 各校の取組の良さや独自性を、さらに密に把握していくためには、学んだことを発信し合ったり、直接関わったりすることができる機会をもつことが、児童も教員も今後さらに必要になる。具体的な計画を今後模索し、実行していくことが課題である。

3 次年度以降の取り組みについて

○小中連携したESDの推進

- ・小中連携事業では、ESD で育成する資質・能力の視点で授業参観を実施するなど、各校の取組を相互に理解していける環境を整えていく。
- ・教育課程の補助資料として作成している「ESDを通して育成する資質・能力の段階表」に添って、各校の各学年が具体的な取組を今後も継続して展開していく。

○SDGsを踏まえたESDの推進

- ・ESD の取組がSDGsに結びつくことを、生活科・総合的な学習の時間だけでなく、各教科等、常に意識することができる学習にしていくことが大切である。今後は、意識の向上だけにとどまらずに、実際に行動・発信できる児童・生徒の育成を目指していくことが重要ではないかと考える。

○「多摩市子どもみらい会議」の充実

- ・「聖小が考える未来のまち + 連光寺小が考える未来 = 聖中が考える未来の多摩市」のような9年間のつながりが見える発表を行う。
- ・小中学生の頃から「多摩市を将来どんなまちにしていきたいのか」を考え、この会議を続けていくことに意義がある。実際に議論し合うことで、新たな発想や取組へと発展させていくこと、また、「多摩市子どもみらい会議」の代表者が自校で報告を行い、全児童・生徒にフィードバックをし、次年度の取組につなげていくことが大切だと考える。

ESD推進校 多摩市子どもみらい会議 代表児童の感想



～令和6年度多摩市子どもみらい会議に参加した各小学校の代表児童の感想～

□連光寺小学校

初めてお会いする人が多くいる中での話し合いは、思っていた以上に緊張しました。

そのような経験は初めてだったからです。自信がもてなくなり、意見が言えなくなってしまいました。しかし、そのような状況の中でも、中学生は目的に向けて話し合い、積極的に発言をしていました。そして、そんな中学生のおかげで、話し合いが活気づいていくことを感じました。台本とおりに進めるのではなく、その場の状況で判断し、話し合いをまとめていくところも、すごいなと思いました。今後は、多摩市みらい会議に参加していた中学生のように、自分で考え発言したり、行動したりする力を身に付けたいです。

□聖ヶ丘小学校

私は、多摩市子どもみらい会議に参加したことで、多くの視点から意見を出すことの大切さを学びました。各学校の取組を聞いていると、私たちの学校とは全く違うような提案が出ていました。しかしながら、私たちとは違う提案も「50年後の多摩市に向けて」というテーマに沿っていて、多摩市への提案をより良いものにすることができました。そこから私は、多くの視点から意見を出すことの大切さを感じました。私は今まで新しい意見を出すことに少し抵抗がありました。しかし、今回の多摩市子どもみらい会議に参加して大切だと感じたことを、学校での話し合いなどの場で、できるようにしたいです。また、目的・テーマに沿った意見をしっかり聞いて、自分の考え方を広げていきたいと思いました。

令和6年度 ESD 推進校 実践のまとめ



 **鶴牧中学校** 

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



 **大松台小学校** 



 **南鶴牧小学校** 

鶴牧中学校区





【目次】

令和6年度 鶴牧中学校区 取組概要 30

【各校の実践】

□多摩市立鶴牧中学校 31

「パートナーシップで私たちの
町や暮らしを守ろう」



□多摩市立南鶴牧小学校 33

「クールジャパンプロジェクト」



□多摩市立大松台小学校 35

「食と私たちの暮らし・
環境と私たちの暮らしを考えよう」



□成果と課題 37

令和6年度 ESD推進校 取組概要



1 取組方針

★パートナーシップで SDGsの目標を達成する。

地域人材や地域環境資源を活用した学習活動の推進により、パートナーシップの必要性や多摩市で育つ意義を見だし、2050年に向けた「私たちのよりよい暮らし」を創造できる児童・生徒を育成する。

2 取組設定の理由

多摩市鶴牧地域は、ニュータウン計画により開発された住宅地が大部分を占める。児童・生徒がこの地域を愛し、自分も地域も共に幸せにするための行動ができるようになるには、地域人材とのパートナーシップを得て教育活動を進めることが必要である。学校教育活動を軸にした地域の活性化を図るとともに、2050年に向けた「私たちのよりよい暮らし」を創造するために必要な児童・生徒の資質・能力の向上と態度の育成に取り組む。

3 ESDを通して育成する資質・能力

【鶴牧中】

《知識・技能》情報を整理し実生活に生かす力 《意思・態度》課題解決に積極的に関わろうとする態度
《探究する力》新たな価値を自ら創造する力 《思考力》未来像を予測して考えを深め改善する力

【南鶴牧小】

《知識・技能》情報を取得し、活用する能力 《意思・態度》多様性を尊重し共生する態度
《探究する力》意思決定力・地域や社会の活動に参加する力 《思考力》批判的な思考力

【大松台小】

《知識・技能》情報を取得し、活用する能力 《意思・態度》多様性を尊重し共生する態度
《探究する力》地域や社会の活動に参加する力 《思考力》批判的な思考力

4 実践のポイント

【鶴牧中】

- ・地域について理解を深め、地域社会の一員として主体的かつ積極的に行動しようとする態度を養う。
- ・自助・共助の考えを理解し、コミュニケーションを図りつつ思考し、協力して問題解決にあたる。
- ・国際社会の一員として他の国や人々と協力するため、コミュニケーション能力を身に付ける。

【南鶴牧小】

- ・持続可能な社会の創造に向け、一人一人が実践できることを計画し継続する。
- ・よりよい未来や社会にできることを考え、発信・行動する。

【大松台小】

- ・地域の自然・街・環境問題・郷土の歴史を理解しよりよい未来や社会のためにできることを考える。
- ・地域人材や地域自然を活用し、児童が探究的な見方・考え方を深める学習活動に取り組む。

多摩市立鶴牧中学校

1 単元名(教科・領域)・学年

「パートナーシップで私たちの町や暮らしを守ろう」

防災・減災教育プログラム

(総合的な学習の時間)第1・2学年

多摩さんぽ

(総合的な学習の時間・校外学習)第1学年

国際理解教育

(総合的な学習の時間)第1・2学年

Tama Tsurumaki Global Gateway

全学年希望者



2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 情報を整理し実生活に生かす力
- 課題解決に積極的に関わろうとする態度
- 新たな価値を自ら創造する力
- 未来像を予測して考えを深め改善する力



3 単元の目標

- (1) 自助・共助の考えを理解し、コミュニケーションを図りつつ思考し、協力して問題解決にあたる。
- (2) 地域について理解を深め、地域社会の一員として主体的かつ積極的に行動しようとする態度を養う。
- (3) 国際社会の一員として他の国や人々と協力するため、コミュニケーション能力を身に付ける。

4 単元計画の概要【全12時間】(第1学年)

- (1) 「東京マイ・タイムライン」や多摩市の防災動画を活用して地域の防災上の課題を知り、自らの行動を考える。



- (2) 「防災デイキャンプ」を通して自助・共助の考えを知り、実践的行動力を高める。



- (3) 多摩市の地理や施設を調べ、班ごとに作成した行動計画に従って多摩市内を散策し、施設見学などを行う。(多摩さんぽ)



- (4) 「多摩さんぽ」を通して学習して得た情報や学びを発表する。



5 授業の紹介【多摩市について考える(第2学年)】

(1)本時の目標

- ア 小学校、中学第1学年で行った地域学習について振り返る。
- イ データを分析し、他の市区町村と比較しつつ多摩市のよさや課題についてあらためて見直す。

(2)授業の展開

導入

小学校や中学第1学年の時の「総合的な学習の時間」で学習した内容や校外学習について振り返る。

1

展開

①多摩市のよさや課題について、日ごろ感じていることや知っていることなどを各班で話し合う。

2

②「住みやすさランキング」、各自治体の統計資料などの資料を東京都の他地区と比較分析し、①の内容を深める。

3

③ロイロノートの共有ノートを使用して、各班で出た意見を提示し、学級全体でどうしたらよりよい街になるかを話し合う。

4

まとめ

各学級で出た意見を学年全体で共有して学びを深め、今後の学習に繋げることを理解する。

5



東京都多摩市

多摩市は、2019年10月1日現在、人口約50万人、面積約1,000km²、人口密度約500人/km²、人口増加率約0.1%、人口減少率約0.1%、人口増加率と人口減少率の差が0%である。また、人口増加率と人口減少率の差が0%である。また、人口増加率と人口減少率の差が0%である。

住みやすさランキング

自治体	住みやすさ	順位
東京都	100	1
東京都	95	2
東京都	90	3
東京都	85	4
東京都	80	5

財政健全度ランキング

自治体	財政健全度	順位
東京都	100	1
東京都	95	2
東京都	90	3
東京都	85	4
東京都	80	5

全庁別順位

自治体	順位
東京都	1
東京都	2
東京都	3
東京都	4
東京都	5

「東洋経済都市データパック」
2023年版参照



人口・気候など基本情報

自治体	人口	気候	基本情報
東京都	13,822,000	16.1℃	東京都庁
東京都	13,700,000	16.1℃	東京都庁
東京都	13,500,000	16.1℃	東京都庁
東京都	13,300,000	16.1℃	東京都庁
東京都	13,100,000	16.1℃	東京都庁

各自治体の統計資料(人口、気候、土地、行財政等)

3

3



ロイロノートでの意見交換の例

《課題 少子高齢化が進んでいる》

・もっと子どもが楽しめるような遊べる場所を作る。・超巨大な老人ホームを作る。それにより、他地区から引越してくる。・子どもが安全に過ごせるようにパトロールを増やす。・幼い子どもが室内で安全に遊べる無料の施設を作る。・幼稚園や保育園、病院、公園、テーマパーク、児童館、高校、大学を増やす。

5

生徒の意見の一部

6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

- ・「防災デイキャンプ」を通して、自分の身は自分で守る必要性、けが人の対処の仕方、災害時は地域の人たちが一番活躍するという事など、いろいろなことを学べてよかった。
- ・「多摩さんぽ」で多摩清掃工場に行き、毎日自分たちがどれだけごみを出しているのか、それを処理するためのお金がどれくらいかかるか、ということがわかった。ゴミをきれいにして燃やしたときの熱で発電するなど、「エコな活動」をしていることも知った。その後に行った「からきだの道」に、ゴミがたくさん落ちていたことに驚いてゴミ拾いを行った。
- ・多摩市は東京の他の都市に比べて緑が多く、環境問題にも熱心に取り組んでいると考えられるが、少子高齢化が急激に進んでいることがわかった。

(1)成果

自分たちが暮らす地域のよさについて様々な角度から理解を深め、地域への愛着を育むことができた。地域の課題を自分自身のこととして捉え、自分たちの暮らしを守るために自助・共助が必要であることを理解することができた。

(2)課題

未来の地域社会を担う人材として、自ら積極的に行動したり、考えたことを実践に移したりする能力を育むことが課題である。

1 単元名(教科・領域)・学年

「クールジャパンプロジェクト」

(総合的な学習の時間)・第5学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

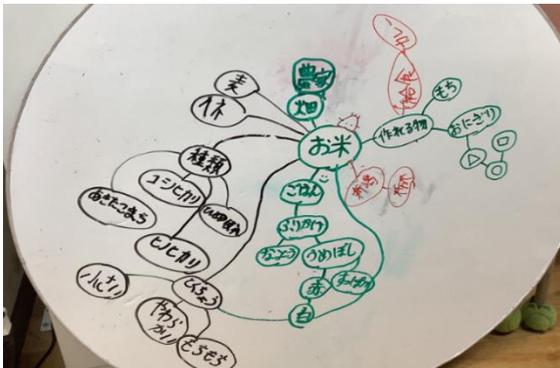
- 情報を取得し、活用する能力
- 多様性を尊重し共生する態度
- 意思決定力・地域や社会の活動に参加する力
- 批判的な思考力

3 単元の目標

- (1) バケツ稲の栽培を通して、米作りの方法を知るとともに、米作りの現状について理解する。
- (2) おにぎり作りを通して、日本の食文化を尊重していこうとする意識を高める。
- (3) 食品ロスの問題について、現状や要因を調べて理解するとともに、一人一人の考え方や行動と深くかかわっていることに気づき、自らの生活や行動に生かそうとする態度を養う。

4 単元計画の概要【全50時間】

- (1) お米について知っていることを、ウェビングマップにまとめ、お米のよさについて考えた。「究極のおにぎりを作ろう」という課題を設定するとともに、学習計画をたて、活動の見通しをもった。



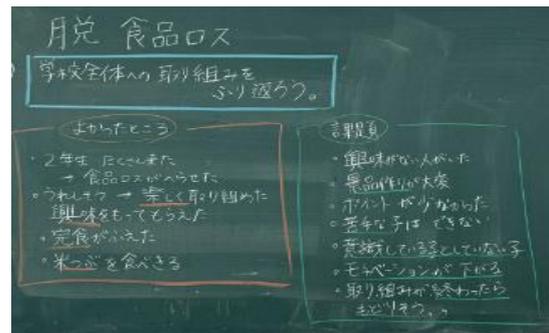
- (2) 米作りの体験活動を通して、お米を育てることの大変さを振り返り、普段食べているものを生産している人の苦労や努力を想起した。



- (3) 社会科の農業の学習に加え本校で1日19kgのご飯の食べ残しが出るという、給食センターの方の話も伺い「食品ロス」について問題意識をもち、削減するために学校全体でできることを考えた。



- (4) これまでの実践を振り返り、今後どのように生かすのかを考えると同時に、学習後も持続することの重要性について考えた。



5 授業の紹介【食品ロスを削減するために学校全体でできることを考える 第40時】

(1) 本時の目標

食品ロス削減のために学校全体で取り組むことについて、具体的な計画を立てることができる。

(2) 授業の展開

導入

食品ロスをなくすために学級で取り組んだ、給食の残量調査の表を基に、気付いたことを全体で共有する。 1

展開

① 学校全体が食品ロスをなくすためにできることをグループで考える。 2

② 学級全体で方法、対象、内容について交流する。 3

③ 学校全体が取り組む際に効果的か、実現可能かを検討する。 4

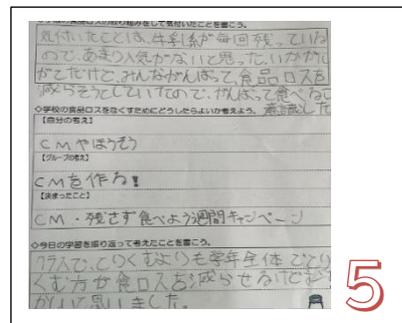
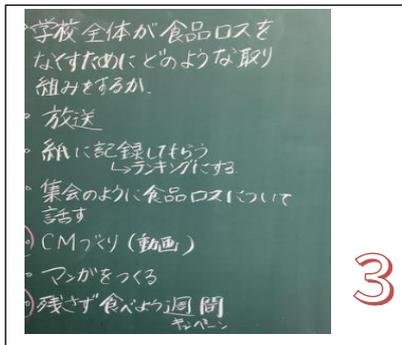
まとめ

自分たちの考えがどうだったか、発表を終えてどうしていきたいかを振り返る。 5

残量調査 (食品ロス)

14日(日)	15日(月)	16日(火)	17日(水)	18日(木)	19日(金)	20日(土)	21日(日)
牛乳パック	2/4	2/4	2/4	2/4	1/4	1/4	少量
わかゆ	イカ	ポテト	じゃがいも		いりごめ		餅干
おひたし	豚と大根	サラダ	肉じゃが	そば	豚骨汁	サラダ	おのり
ごはん	1/4	1/4	なし	少量	1/4	1/4	少量
ごはん	1/4	2/4	1/4	1/4	少量	1/4	1/4
パン		1				2	
デザート				りんご			

1



6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

- ・米作りの大変さを知り、残さずに食べようと思った。社会科で学習した農家の後継者不足や消費量の減少を自分事として捉えられた。
- ・学校全体で食品ロスを減らす取り組みを考えるのが難しかった。みんなに食品ロスのことについて考えてもらうための手段を選ぶのが大変だった。

(1) 成果

・米作りを通して、農家の人の苦労や工夫を知ることができた。

・食品ロス削減について学級だけでなく、学校全体に意識を広げることができた。

2) 課題

・一部の子どもたちには食品ロス削減の意識をもつことが難しい様子だった。

1 単元名(教科・領域)・学年

「食と私たちの暮らし・環境と私たちの暮らしを考えよう」
(総合的な学習の時間)・第5学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 情報を取得し、活用する能力
- 多様性を尊重し共生する態度
- 地域や社会の活動に参加する力
- 批判的な思考力

3 単元の目標

(1) 食とエネルギーの問題について専門家や地域の人々と関わりながら、体験したり調べたりすることで、食の価値とエネルギーの大切さに気づき、これからの自分と環境とのよりよい関わりを考えることができるようにする。

4 単元計画の概要【全30時間】

(1) 米作りに際して、地域にある田んぼを活用し、地域の方の協力のもと、田植え体験を行う。
(協力:水田愛耕会・市役所公園緑地課)



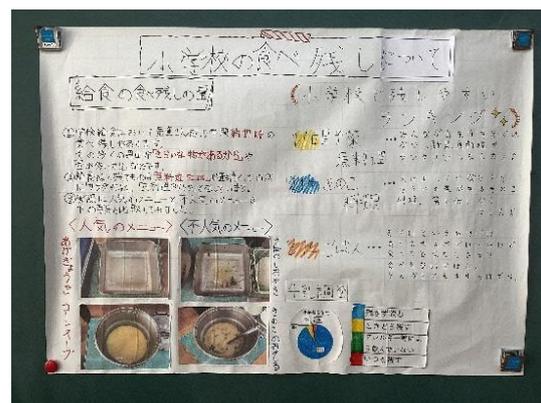
(2) 米作りの稲刈り体験を行う。
(協力:水田愛耕会・市役所公園緑地課)



(3) 米作りの脱穀・粃摺り体験を行う。
すべての作業を手作業で行うことで、米作りに多くの工程があることやその大変さを理解する。
(協力:生活協同組合パルシステム東京)



(4) 米作り体験を通して学んだことから、食品ロスや水田の生物環境などに着目し、これからの自分と環境とのよりよい関わりを考えまとめ発表する。



5 授業の紹介【今何ができるかを考える 第15時～第30時】

(1) 本時の目標

- ア 米作りをする活動を通して、身の回りの環境について考える。
- イ 環境を大切に、持続可能な社会にするために自分たちができることを考える。

(2) 授業の展開

導入

米作り体験を振り返り、米をテーマに興味・関心のあることへと広げる。 1

展開

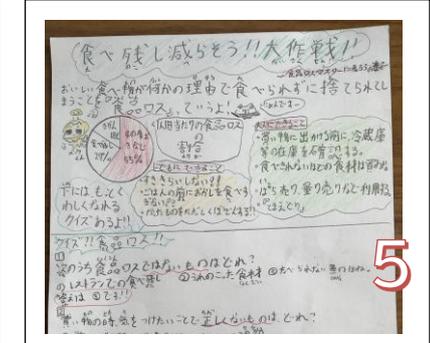
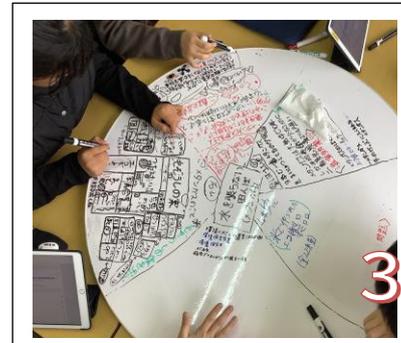
① 米に関する課題を見付け、ロイロノートを活用し、個々の課題を提出し、テーマ毎にグループをつくる。 2

② グループ毎に分かれ、それぞれの課題について調べる。 3

③ 調べたことをまとめる。
・ロイロノート
・ポスター 4

まとめ

まとめたことを発信する。
・新聞の掲示
・他校との交流
・校内での発表 5



6 本単元を通して得られた成果と課題

□ 児童・生徒の学習の評価（意見・感想等）

・田植え体験では、農家の方の説明を聞いて、均等に植えることやちょうどよい深さに植えること、苗が立つように植えることを知った。きれいに植えるのが難しかった。

・脱穀や粃摺り体験では、丁寧に集中して作業をしないと、玄米にはならず大変だった。特に、粃摺りは力が必要であった。米作りにはたくさんの工程があり、その大変さを知った。

・米の栄養素や米料理、歴史、食品ロスについて知り、米を大切に食べる心や作り手への感謝の気持ちをもつことができた。

・地球温暖化や自然災害などにより、米不足が深刻となっていることを知り、自然環境を守ることや食べ物を無駄にせず大切にすることへの意識が高まった。

(1) 成果

米作り体験を通して、身の回りの環境について目を向け自然環境を守ることや食品ロスの問題について考えることにつながった。また、日本の美味しい米をこれからも食べ続けられるように、自分たちができることを考えて行動しようとする意識が高まった。

(2) 課題

自分たちができることを考えて行動したり、継続的に実践したりする力を高めていく必要がある。



1 各学校の成果と課題

□鶴牧中学校

【成果】

- 探究学習や校外学習を通して、自分たちが暮らす地域のよさについて様々な角度から理解を深め、地域への愛着を育むことができた。
- 講演や話し合い活動を通して地域や社会の課題を知り、自分たちの問題として改善策を考えることができた。
- 課題解決のために他者理解や社会全体の連携が必要であることに気づき、コミュニケーション能力を養うべく、学びを深めた。

【課題】

- 話し合い活動や探究学習に主体的に取り組んできたことを生かし、社会の中の多様な課題を自ら発見し、行動するなどこれからの社会を担う人材として自ら積極的に行動できる資質や能力を育てていきたい。
- 公的機関だけでなく、地域の民間企業などの協力も得て、学習を深めていきたい。

□南鶴牧小学校

【成果】

- 日本の食文化の主となる米の重要性や歴史を学び、稲作を通して具体的な作業を経験し、農業の知識を深めた。
- 稲作を通じて、作業の手間や時間がかかることを体験し、農業の大変さを理解した。また、食べ物を大切にしようという意識が高まった。
- 給食の残量調査を通じて、食品ロスの現状が数値で把握できた。調査結果を基に、無駄なく食べる方法を考えるきっかけが生まれ、食品ロス削減を目標に他学年へ個別に発信した。

【課題】

- 給食の食品ロスを削減することは成功したが、一部の子どもたちには意識が定着しなかった。今後は、他教科を通じて食品ロスを実際に学ぶ機会を増やし、日々の指導の中で意識させていくことが必要である。
- 米作りを通じて得た学びや成果を地域の人々と共有する機会が作ることができなかった。地域との連携や交流を通じた学びの広がりをより一層意識して取り組んでいきたい。

□大松台小学校

【成果】

- 各学年で地域資源を活用し、地域の自然や町のよさを児童が体験的に感じ取ることができた。児童にとって身近な場所やものに対して児童が主体的に学習に取り組み、地域への関心をさらに高めることができた。
- 校内人材だけでなく、市の職員や栄養教諭、地域で活躍される方など、様々な大人が児童に関わることにより、児童が自らの学びや地域への思いを深めることができている。また、対話の大切さや、協力することの素晴らしさにも児童が気付けた。

【課題】

- 「よりよい地域・社会にするためにわたしたちにできることは？」という視点で課題を追究したり、実際に行動したりする等の実践力が弱い。
- 探究的な学習を充実させていくために、今年度の成果や地域とのつながりを次年度に引き継ぐと共に、児童の思いに寄り添った学習計画を立てる等の改善が必要である。



2 中学校区の取組の成果と課題

【成果】

- 3校ともに地域人材や地域環境資源、施設を活用することで、自分たちが暮らす地域のよさを見直し、愛着や理解を深めることができた。
- 自然環境や社会全体の未来において予測される課題に関心を持ち、その解決に向けて行動することの必要性について気付き、考えを深めることができた。
- 仲間と共に協働して学習を進めることで、日頃から対話を深め、よりよい関係を築くことの大切さに気付くことができた。

【課題】

- 各学年で学習したことを一過的な活動に終わらせず、進級・進学後の学習へと発展・充実させたい。また、実践的な社会参画につながるものにしたい。
- 環境問題をはじめとした社会的な課題解決に向けて主体的かつ創造的に取り組む資質や能力の育成に努めたい。

3 次年度以降の取り組みについて

○小中連携したESDの推進

- ・3校で互いの特色や取り組みについて理解した経験を、次年度以降も引き継ぎ、連携を深めていく。
- ・3校が近接している特色を生かして、地域資源や学習計画の情報共有などを行い、児童生徒が地域の良さや魅力をさらに感じられるようにしていく。

○SDGsを踏まえたESDの推進

- ・学習した内容や話し合ったことを実践に結び付けるとともに、定期的に振り返ることでフィードバックを行い、具体的な軌道修正や動機付けを行っていく。活動のみに終わらない学習にする。
- ・SDGsの17の目標を意識し、さまざまな教科や活動に関連させ、多角的かつ多面的に理解を深めていく。

○「多摩市子どもみらい会議」の充実

- ・ESD 実践研修以外でも3校で連絡を取り合い、各校の取り組みや課題について共通理解が図れるように努力した。今後も3校で共に進んでいく意識を高め、郷土愛を醸成していける学習活動を共に模索していく。

ESD推進校 多摩市子どもみらい会議 代表児童の感想



～令和6年度多摩市子どもみらい会議に参加した各小学校の代表児童の感想～

□南鶴牧小学校

私たちは食品ロス削減に向けて取り組んできましたが、その過程で他の学校の環境問題や高齢化問題など食品ロスにかかわる様々な問題について話を聞くことができました。その中で、自分たちの身近な問題だけではなく、社会全体にかかわる大きな課題であることが分かりました。そして、自分が実際に学んだことを、より多くの人に伝えていくことが重要であると感じました。これからも、自分たちの取組を広め、周囲の意識を高めていくことの大切さを忘れずにいたいと思います。

□大松台小学校

私は今まで食品ロスを減らす取組は「食品を買いすぎない」など一人一人の取組が大切だと考えていました。しかし、多摩市子どもみらい会議に出て、違う学校の小学生や中学生と話し合いをする中で、一人一人だけでなく、地域の人などと協力して取り組むことも重要であると気付きました。話し合いを通して、人によって違う考え方をもっているからこそ対話することが大切だと感じました。

これからも多摩市子どもみらい会議を通して学んだことなどを2050年の多摩市のために生かしていきたいです。また、学習や日常生活の中で多くの意見に触れられるように話し合いを深めていきたいです。



～令和6年度多摩市子どもみらい会議に参加した中学校の代表生徒の感想～

□鶴牧中学校

小学生の皆さんが「SDGsの達成のために何をすべきか」というとても大きな課題について、解決策を学校全体で考え、「ゲーム感覚でできるようにしよう。そのために、達成できたらシールを貼って競争心を燃やしてみよう」など、今できそうなアイデアを試してみたうえで、さらにそこから考えを深めて、解決策として発展させようとしていたことが素晴らしいと思いました。

中学校でも、今回話し合ったことを自分たちの学校生活の中で行動に移していけるようにがんばっていきたいと思います。



1 単元名(教科・領域)・学年

「よりよいまちをつくるために」(総合的な学習の時間)

第4学年

2 ESD を通して育みたい資質・能力

- 調査や活動に取り組む技能
- 環境や社会に関心をもち、意欲的・主体的に取り組む態度
- 結果をまとめる力
- 多面的に見る力(関係性を踏まえて観る力)

3 単元の目標

(1)第3学年の「多摩市広報大使になろう」の学習で考えた地域のよさを踏まえ、福祉の視点から地域を見つめ直して課題を見付け、地域の多くの人にとって暮らしやすいまちづくりについての考えを発信する。

4 単元計画の概要【全50時間】

- (1)様々な立場の人が、より安全で快適にらせるようにするために、必要なことを考え、活動計画を立てる。
- (2)車いす体験、高齢者疑似体験など、個人で設定した課題に沿った体験をする。
- (3)体験で感じたことを伝え合う。暮らしを支える仕事をしている人の工夫について考え、まとめる。
- (4)学年間で発表を聞き合い、考えを広げ、自分に何ができるかを協議する。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・地域や校舎内のバリアフリーを調べることによって、身の回りに生活できる工夫があることに気付くことができた。
- ・高齢者福祉体験や車いす体験を通して、体に不自由がある方の大変さや苦勞に気付き、自分たちができることについて考えることができた。

【課題】

- ・単元のまとめで個々の児童が考え、発表した案について実践し、実践を通じて気付いたことを改めて考える機会を設定することにより、さらに追究できる学習活動に発展していく可能性がある。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

高齢者体験では、おもりを付けてお年寄りになってみました。少し歩いただけで、腰が痛く、思うように体が動きませんでした。手足も曲げにくく、あらためて高齢者の方々は大変なのだなあ、と思いました。自分が手助けできることを考えました。



1 単元名(教科・領域)・学年

「乞田川から見つけよう」(総合的な学習の時間)

第4学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 様々な疑問をもち、いろいろな課題の中から自分の解決したい課題をもつことができる力
- 自分なりの方法を計画し、課題を解決する力
- 自分の考えを聞き手に分かるように伝えることができる力

3 単元の目標

地域にある乞田川に関心をもち、観察や調査を通して、身近な環境問題や自然、生き物、乞田川のルーツ、乞田川と多摩川の関係などに目を向け、自分たちの生活との関わりについて知ることで、よりよい環境にするために自分たちができることを考え、実践する活動を通して自分たちの生活に生かしていこうとする態度を養う。

4 単元計画の概要【全40時間】

- (1) 乞田川のガサガサ体験を実施し、疑問に思ったことや調べてみたいことを考え、活動計画を立てる。
- (2) ガサガサ体験を教えてくださいました方に質問するために、課題に沿った資料を調べる。川の環境や生物などについて調べる。
- (3) 調査して感じたことを伝え合う。それぞれが集めた情報を基に、今後も行動していきたいことを話し合う。
- (4) 話し合ったことを基に、発表の方法を工夫する。まとめたことを3年生に発表する。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・乞田川の環境について考えることで、普段何気なく生活の中にある乞田川にも課題があり、大切にしていくなければならないことを実感することができた。

【課題】

- ・自分たちができることをこれからも実践できる場をもち、さらに追究ができるような学習にしていかなければならない。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

乞田川には、自分たちが思っているよりもゴミが隠れていたことが分かりました。そのゴミを魚が食べてしまったり、その魚を鳥が食べてしまったりしないよう、ゴミを捨てないように気を付けたいです。



(1)



(2)



(3)

1 単元名(教科・領域)・学年

「稲作博士になろう」(総合的な学習の時間)・第5学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 情報を取得し、活用する能力
- 内省的な思考力

3 単元の目標

- (1) 米づくりの体験活動や調べ学習を通して、米の消費量の減少と生活様式の変化との間に密接な関わりがあることを理解する。
- (2) 米文化の良さを伝える内容や方法を協働的に考える。
- (3) 米の良さを身近な人に発信したり、自らの生活に生かしたりしようとする心情や態度を育てる。

4 単元計画の概要【全40時間】

- (1) 米文化を取り巻く様々なデータから問題を見だし、解決のために必要な情報を集め、分析し、米の価値を理解する。
- (2) 稲作の体験活動を通して、生産のために必要な知識の理解を深め、生産する側の苦労や労力を知り、米の価値を多方面から理解する。
- (3) 米文化を継承していくことの大切さを理解し、米の魅力を広げていくというテーマに基づき自分たちにできることを考え、まとめる。まとめたことを他学年に発表する。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・身近な米について考えることで、残さず食べようという意識や、自分たちの生活を見直すことへの意識が高まった。社会科との合科的な学習ができた。

【課題】

- ・話し合うこと通じてグループで考えをより良い考えにしていく協働的な学びの時間を確保できたが、多様な他者と関わっていく態度の育成が必要である。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・米離れ問題を分かりやすく伝えるにはどうしたらいいか話し合った。みんなで話し合うといういろいろな方法が出てきて計画がスムーズに行えた。
- ・自分で考えるだけでは思いつかなかったことが、友達とやりとりする中で気付くことができた。交流することは大切なんだと改めて思った。



12 つくる責任
つかう責任



1 単元名(教科・領域)・学年

「環境問題について考えよう～グリーンカーテンプロジェクトと段ボールコンポストに挑戦～」

(総合的な学習の時間)・第4学年

2 ESD を通して育みたい資質・能力

■環境や社会に関心を持ち、意欲的・主体的に取り組む態度

■情報を取得し活用する能力

3 単元の目標

地球温暖化の現状や今後の展望を知り、温暖化対策の一つとして、グリーンカーテンや段ボールコンポストという方法があることを学び、実践したり、友達と一緒に探究活動を行ったりすることを通して、より良い社会をつくるためにできることについて考える。

4 単元計画の概要【全 40 時間】

- (1)地球温暖化について知る。
- (2)グリーンカーテンプロジェクトの計画を立てる。
- (3)ツルレイシを育て、グリーンカーテンを作る。
- (4)グリーンカーテンに関する課題をたて、情報を収集、分析、整理する。
- (5)段ボールコンポストでゴミ減量、再利用に挑戦する。
- (6)学習を振り返る。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・環境問題への興味、関心をもつきっかけを作ることができた。
- ・実践を通して、実体験を得ながら学習を進めることができた。

【課題】

- ・グリーンカーテンや段ボールコンポストの取組を児童が継続的に行うことが難しく、児童が自分でできることを考えるという点において、課題が残る。

児童・生徒による学習の評価（意見・感想等）

- ・グリーンカーテンでできた日陰で涼むことができた。
- ・普段、捨てているゴミを再利用できることに驚いた。



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任 つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



1 単元名(教科・領域)・学年

「地域をもりあげよう!すわっ子市場!」
(総合的な学習の時間)・第6学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 情報を取得し、活用する力
- 持続可能な開発への価値観
(よりよい環境や社会づくりの意思)
- 思いを発信する力
- 創造する力 (新たに生み出す力)

3 単元の目標

- (1) 地域や学校の抱えている課題に気づき、すすんで解決方法を考え、実践する。
- (2) 自分の考えに自信をもち、すすんで伝えたり、行動したりする。
- (3) 地域を愛し、すすんで関わろうとする。

4 単元計画の概要【全50時間】

- (1) 地域のイメージや思いを共有し、すわっ子市場を開催する目的を設定する。
- (2) 地域農家と連携し、野菜を栽培する。
- (3) 販売担当と宣伝担当に分かれて、すわっ子市場に向けて活動する。
- (4) 地域を盛り上げるために、すわっ子市場を開催する。
- (5) すわっ子市場を振り返り、地域の現状から魅力を高めたり、課題を解決したりするための方法を考える。
- (6) 学習発表会で提案したり、実践したりする。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・「地域を盛り上げたい!」という思いから活動の目的を設定することで、野菜を栽培し、地域で販売することが必要だという実感をもって活動できた。
- ・販売を通して地域に関わることで、地域の魅力や課題を実感できた。

【課題】

- ・それぞれの思い描くまちづくりのための実践を精査したり、実践したりすることが課題である。



(2)



(4)

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・多くの方にすわっ子市場に来ていただいたり地域の魅力を広めたりするための宣伝を計画した。地域には高齢者が多いことを感じた。
- ・地域の方に喜んでもらえるように販売方法を工夫した。近くの店の販売価格を参考に値段を考え、さらにルーレットで割引額を決める工夫で地域の方に喜んでもらった。

1 単元名(教科・領域)・学年

「永山よくし隊～永山商店街～」

(総合的な学習の時間)・第3学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

■環境や自分の住んでいる地域に関心を持ち、意欲的・主体的に取り組む態度

■課題解決に向けて自分たちができることを考え、協働し、実践する力

3 単元の目標

- (1)地域の活性化につながる「永山よくし隊」を成功させるための具体的な方法を考えることができる。
- (2)課題解決のための方法を、友達と協力して実践することができる。
- (3)永山ならではの良さや特徴について理解を深め、地域の一員として、それらに関わっていこうとする意識をもつことができる。

4 単元計画の概要【全25時間】

- (1)永山商店街の方による講話を聞く。
- (2)永山商店街の現状について調べる。
- (3)永山商店街を良くするための計画をたてる。
- (4)商店街のごみ拾いをする。ポスター作成する。
- (5)プロジェクト活動の結果を報告する。
- (6)プロジェクトを通して学んだことをまとめる。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

・永山商店街の現状を題材に地域を良くしようと考えたことで、意欲的、主体的に活動に取り組むことができた。

【課題】

・課題解決の方法を考える際、そのアイデアに広がりが見られなかった。永山商店街の現状について理解する時間をより多く設けることが課題である。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・商店街のごみ拾いをしたら、思っていたよりもごみが多かったから、自分も気を付けようと思いました。
- ・福祉亭の人に話を聞いて、子ども食堂のことが分かったから友達を誘って行ってみたいと思いました。



(4)



(2)



(3)



(4)

1 単元名(教科・領域)・学年

「未来をつくる!エネルギー研究班」
(総合的な学習の時間)・第6学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 【意思・態度】環境や社会に関心を持ち、意欲的・主体的に取り組む態度
- 【探究する力】地域や社会の活動に参加する力(社会参画力)

3 単元の目標

世界の環境課題である地球温暖化とエネルギーの関係について調べることを通し、これからの発電や自分たちの生活の在り方について考え、持続可能な社会づくりに向け、自分たちにできることを考え実行する。

4 単元計画の概要【全70時間】

- (1)様々な発電方法とそのメリットとデメリットについて調べて発表する。
- (2)再生可能エネルギーによる発電について詳しく調べるとともに、自分たちでも発電に挑戦する。
- (3)再生可能エネルギーによる発電について、多くの人に関心をもってもらうために、地域行事で再エネ発電コーナーを作り、地域の人にその魅力を伝える。
- (4)実践を振り返り、自分たちにできる環境に優しい行動を考え実践する。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・発電への挑戦を通し、児童の再生可能エネルギーによる発電への関心が高まった。地域の人に自分たちの思いを発信し、質問や感想を得たことにより、自分たちの学びの価値に気付くことができた。

【課題】

- ・AIの発展に伴う電力消費量の増加など、日々の生活での節電等では解決できないことも大きい。自分たちの生活変容と共に、今後も世の中に目を向け、考え続けられる力を育むことが課題である。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

・夢灯りを通して、地域の人たちが再生可能エネルギーでの発電について真剣に考えてくれた。自分たちと同じ思いでこれからの発電について考えてくれる人が増えることで環境に優しい発電が広がると思った。



(1)

- ・管理するためのコストが安い
 - ・作ったエネルギーの中で使えるエネルギーが多い
 - ・発電時に二酸化炭素を排出しない
 - ・日本には山が多く、水資源も豊富
- 日本に適した水力発電は発電方法



1 単元名(教科・領域)・学年

「環境問題について考えよう～ハケ岳移動教室～」
(総合的な学習の時間)・第6学年

2 ESD を通して育みたい資質・能力

- 環境や社会に感心を持ち、意欲的・主体的に取り組む態度
- 情報を取得活用する能力
- コミュニケーション能力
- 論理的な思考力

3 単元の目標

- (1)自然環境についての知識を深め、自然と人が共生していくこと、持続可能な社会の実現について関心を高め、社会参画の態度を育む。
- (2)自然環境についての課題を見付け、課題解決のための方策を話し合っまとめ表現する力を育む。

4 単元計画の概要【全16時間】

- (1)自然と環境を考え、学びたいテーマを決める。
- (2)学習計画を立て、調べ学習を行う。
- (3)ハケ岳移動教室で自然観察や間伐体験を行う。
- (4)学んだことをグループでまとめる。
- (5)5年生に向けて発表を行う。
- (6)自分たちにできる自然保護活動を考える。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・自分自身でテーマを決めて調べ学習を行い、体験活動、学びの共有という流れにしたことで、高い意欲で学習を進めることができ、友達との共有でも生き生きと自分の学んだことを伝え合うことができた。

【課題】

- ・単元の学習が終わり、児童の中で自然環境について考えることが完結してしまった。学習が終わった後も、定期的に自然環境の学びを振り返り、確認し、考える機会をつくるのが今後の課題である。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・事前に調べたきのこを、ハケ岳で実際に見ることができてよかった。多摩市との環境の違いを感じた。
- ・友達が調べたことを聞くのが楽しかった。
- ・5年生が興味をもてるように発表の仕方を考えるのが難しかった。
- ・自然破壊によって、いなくなってしまう動物や植物があることを考えると、とても悲しいと思った。
- ・SDGsの大切さが分かった。



(3)



(4)

ハナイグチ(じごほう) 児童のつくった発表用スライド

夏から秋にかけてカラマツ林内に発生します。日本以外にも、北米やオーストラリアなど世界各地に分布しています。傘の表面は赤茶色で、ネバネバしている一方、傘の裏面は、スポンジ状で、鮮やかな黄色になっていて、ツートンカラーがきれいです。

ハケ岳では、じごほうと言われていて、キノコ狩りでもよくとられているキノコです。



(5)

1 単元名(教科・領域)・学年

「見つめよう、わたしたちの町」
(総合的な学習の時間)・第3学年

2 ESD を通して育みたい資質・能力

- コミュニケーションを行う力
- 他者と協力する態度
- 進んで参加する態度

3 単元の目標

- (1)地域行事への参加や地域の人々との交流から、地域を盛り上げようとする人の思いを理解する。
- (2)よりよい町(地域)にするために、自分たちにもできる取組を考え、実践する。
- (3)地域の人々とのつながりを大切にしながら生活しようという思いをもつ。

4 単元計画の概要【全50時間】

- (1)自分たちの住む町に対する思いや、これまでの経験を伝え合う。
- (2)地域の催しを企画・運営する方々から話を聞き、地域に対する思いを理解する。
- (3)催しの開催にあたって、自分たちのできることを考え、話し合う。
- (4)話し合ったことを実践する。
- (5)実践を通して学んだことを下級生に伝える。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・地域の催しが賑わうようにと考えたことを実践することができた。
- ・自分の住む地域に目を向ける児童が増えた。

【課題】

- ・年に一度の大きな催しを取り上げたため、児童の意識の高まりを維持していくための工夫が必要である。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・地域の催しを宣伝したり、参加したりできたことが自信になりました。町のために自分にもできることがあるのだと分かりました。
- ・多摩市以外の人にPRをして、「行ってみたい!」と言ってもらえたことが嬉しかったです。



1 単元名(教科・領域)・学年

「未来につながるよりよい暮らし～防災～」
(総合的な学習の時間)・第4学年

2 ESD を通して育みたい資質・能力

- 自ら課題を発見し、協働的に課題を解決する力
- 主体的に活動に取り組む態度
- 情報を収集し活用する力

3 単元の目標

- (1)地震や防災に関する知識や問題について知り、設定した課題について、本やインターネットで調べたり、専門家、語り部の方の話を聞いたりして調べ、実践できるようにする。
- (2)調べたことを広く発信することで、社会の一員としての意識をもち、地域に貢献する。

4 単元計画の概要【全20時間】

- (1)ウェビングマップで、防災のイメージをもつ。
- (2)自分の課題を設定する。
- (3)専門家や東日本大震災を経験した語り部の方の話を聞く。
- (4)情報を収集し、課題について調べる。
- (5)2月の「とよばあく」(生活科・総合的な学習の時間の学校行事)で発表する。
- (6)学びを振り返り、今後の学習意欲を高める。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・社会科の学習を本単元につなげ、防災への知識がより深まり主体的に学ぶ意欲が高まった。
- ・専門家や語り部の方の話を聞く機会を設定することにより、防災に対する課題を明確にもち、実践的な力が身に付いた。

【課題】

- ・単元の目標達成のために、発信する場を広げるための工夫や機会の設定が必要である。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・専門家や語り部の方の話を聞いて、地震の怖さが分かり、大きな地震が起きた時のために備えることが大切なことが分かった。
- ・自分たちの学んだことが、家族や地域の方の命を助けることに役に立ってくれたら嬉しい。



(1)



(3)



(3)

1 単元名(教科・領域)・学年

「ライスプロジェクト」

(総合的な学習の時間)・第5学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 自ら課題を発見し、協働的に課題を解決する力
- 主体的に活動に取り組む態度
- 多角的・多面的に見る力、創造する力

3 単元の目標

- (1)米づくりについて調べたり、実際に体験したりする活動を通して、米に関して理解を深める。
- (2)収穫した稲や米を使い、体験活動をしたり、食べたりすることで、伝統的な工芸や地域での違いを理解する。

4 単元計画の概要【全25時間】

- (1)農家の方に、米作りの話を聞いたり、地域の菜園サポーターの方に協力してもらったりしながら、代かきや田植えをする。
- (2)地域の菜園サポーターの方に協力してもらいながら、米の収穫や乾燥をする。
- (3)乾燥後の米を脱穀したり、もみすり体験をしたりする。
- (4)稲を使い、しめ縄体験を行う。収穫した米を市販の米や外国の米と食べ比べ、地域や品種により、収穫できる米の違いについて発表する。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・米作りを代かきから行うことで、児童は、米づくりの大変さや米の大切さを理解することができた。
- ・地域の方との連携により、児童は米作りや地域で活躍する人について理解することができた。

【課題】

- ・米作りの経験から、さらに発展した学習のための単元設定が必要である。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・お米を育てるのが、とても大変だと気付いた。お米の大切さを理解した。
- ・しめ縄づくりから、米は育てるだけでなく、物を作ることができることが分かった。米に無駄なところが一つもないことが分かった。



1 単元名(教科・領域)・学年

「環境について「自然との共生を学ぶ」
(総合的な学習の時間)・第1学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 自ら「環境・エネルギー」問題を学び実践する力
- 探究的学習の能力(情報収集力・活用力)

3 単元の目標

- (1)環境問題に目を向け、自然環境の大切さや地球温暖化に対する考えを深める。
- (2)探究学習の基本を学ぶ。

4 単元計画の概要【全6時間】

- (1) ガイダンスを行う。
- (2) テーマ、探究方針を決定する。
- (3) 情報を集める。
- (4) 情報を整理して新聞形式にまとめる
- (5) クラス内での発表から学年発表会を行う。
- (6) 発表した新聞を掲示し広く共有する。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

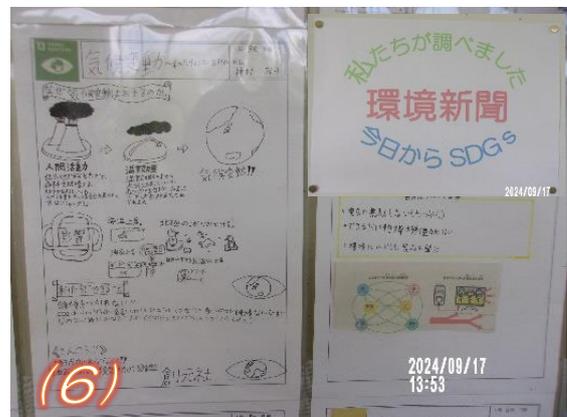
- ・環境・エネルギー問題を自分自身のこととして捉える視点をもつことができる学習になった。
- ・今までの調べ学習のイメージから、自分で調べるテーマを決めて主体的に学習を進めていく探究学習の流れを学ぶことができた。
- ・クラス・学年の発表活動も分かりやすく工夫して充実したものになった。

【課題】

- ・今後の社会科・理科など教科の学習とも併せ、身近な生活の中での気づきを広く世界の問題へ視野を広げていくことが課題である。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・CO₂を出さないための節電の必要性、身近な生活の中でも紙ストローの使用など、積極的に環境を守るための取り組みが大切だと実感した。
- ・50年後に石油・天然ガスがなくなる予測に驚いた。再生エネルギーの発電割合を増やすなど、未来の自分たちが困らないように自分たちにできることを少しでも行動していこうと思った。



1 単元名(教科・領域)・学年

「CURE 雑巾プロジェクト」

(総合的な学習の時間・家庭科・作業学習)

・第1学年、特別支援学級第1～3学年

2 ESD を通して育みたい資質・能力

■循環型社会の仕組みを学び、実践する力

■自主的に活動に取り組む態度

3 単元の目標

- (1) 和紙製の布を使い、自分たちで裁縫して雑巾を作る。
- (2) その雑巾で、掃除をする。
- (3) 使い古した雑巾を土に埋め、循環の仕組みを体験から学ぶ。

4 単元計画の概要【全14時間】

- (1)SDGsや循環型社会について学ぶ。
- (2) (株)キュアグループによる出前授業を行う。
- (3)雑巾キットの裁縫を行う。
- (4)裁縫した雑巾を使っての学校の清掃を行う。
- (5)畑に作物を植える。
- (6)作物の傍へ雑巾を設置する。
- (7)雑巾が消える様子を観察する。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

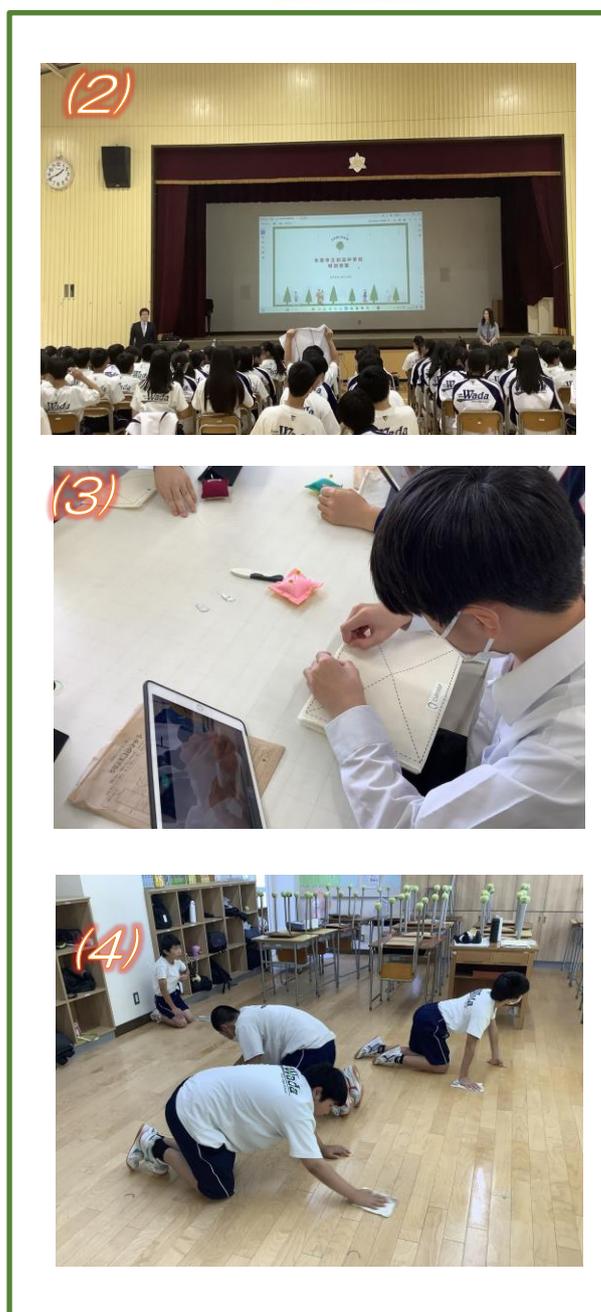
・環境にやさしい植物から作った和紙を使い、最後は土に埋めて生分解させられることを学ぶことができた。特別支援学級については昨年度に引き続きこのプロジェクトを推進し、より循環型社会についての学びを深めることができた。

【課題】

- ・一連の取組が、社会の中でどのように一般化され活用されるのかということを考えさせるとともに、次年度以降は雑巾にとどまらず、身近な日常生活の中における「循環」の在り方を考えさせたい。
- ・本計画は昨年度からの継続であり、来年度も継続予定である。「特別な活動」という位置付けではなく、身近な循環型社会を意識させていきたい。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・雑巾が土に戻ることに楽しみ。
- ・普通は捨ててしまうはずのものが有効活用できるなんてすごいと思った。
- ・同じように再利用できるものがないか探したい。



1 単元名(教科・領域)・学年

「私が考える未来の多摩市」
(総合的な学習の時間)・第1学年

2 ESD を通して育みたい資質・能力

- 情報を取得し活用する能力
- 多様性を尊重し共生する能力
- 内省的な思考力
- 思いを発信する力

3 単元の目標

- (1)多摩市の現状を調べ、魅力や課題を把握する。
- (2)魅力ある多摩市を想像し、SDGsとの関連性を考え、探究していく。
- (3)提言内容を発信し、行動につなげていく。

4 単元計画の概要【全 12 時間】

- (1)SDGs への取組の意識付けガイダンス
- (2)個人でのテーマ設定からグループの編制
- (3)グループごとのテーマ設定
- (4)調査、探究活動から提言内容
- (5)提言内容の発信、発表活動
- (6)まとめ

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・多摩市の現状から、多摩市の魅力や課題を具体的に把握することができた。
- ・多摩市の未来像を描きながら、自分自身が住みやすいと感じられるよう、行動について考えることができた。

【課題】

- ・多摩市全体の現状(主に改善したいこと)について把握するには時間が必要である。
- ・提言内容を行動につなげることを考えさせた際、提言を届けたい場所が市役所、企業などとなる可能性がある。実際の行動となる活動の場を確保していく必要がある。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・自分たちでテーマ設定をし、活動することで、身近なこととして感じられた。
- ・他のグループと(探究する)題材が違ったが、SDGsの目標として共通すること、つながることがあった。
- ・提言する内容を、実際の行動としていくことがすごいことだと改めて思った。



1 単元名(教科・領域)・学年

「人と自然のつながりを考える」

(総合的な学習の時間)・第1学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 主体的に行動し、責任ある行動をとれる判断力
- 目的を明確にし、協調・協働しながら行動する実践意欲と態度の育成
- 互いの個性に対する理解

3 単元の目標

- (1) ESDの視点に立ち、自然や人とのつながりを考えながら活動することにより、持続可能な社会について考えることができる。
- (2) 宿泊行事を通し、クラスや学年の仲間と共に過ごすことで、互いの個性に対する理解を深めるとともに、集団生活の規律を守り、自主的に行動する姿勢と責任ある態度を育成する。

4 単元計画の概要【全 25 時間】

- (1) 宿泊学習の目的を確認し、目標達成に対する役割分担を行う。
- (2) SDGsの17の目標の中から、宿泊学習において学習と関連のある項目を選び、世界で起きている問題点を調査する。
- (3) 飯盒炊飯、田植え体験、畑作体験、陶芸体験、ほうとう作りを通じ、自然とのつながりや生産者の知恵や工夫、苦勞、喜び、食べ物大切さを知る。
- (4) 宿泊学習の体験を通じて、事前学習で調べた内容と体験を関連し、まとめる。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

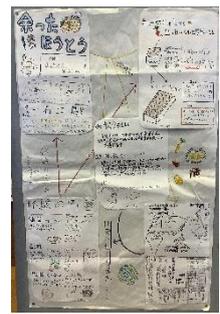
- ・事前から ESD の視点を取り入れたことで、自らの体験が持続可能な社会に対してどのように役立つかを考えることができた。

【課題】

- ・今後は SDGs17 の目標に対して、それぞれに対する理解を深めてから活動を行うことで、さらに17の目標との関連を横断的に考えることができよう単元構成を工夫していきたい。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・田植え作業や畑作体験と飯盒炊飯とほうとうづくりを経験することで、食材が手に入るまでの苦勞を知り、もっと大切にしようと思った。



1 単元名(教科・領域)・学年

「持続可能な社会の実現に向けて自分たちが
できることを考える」

(総合的な学習の時間)・全学年合同

2 ESDを通して育みたい資質・能力

■人や社会、自然とのよりよい関係を築き、主体的に
課題を解決し、社会に貢献する力

■情報を取得、活用してわかりやすく発表する力

3 単元の目標

- (1)テーマの問題点やその背景を考える
- (2)日本と世界の取組を比較する
- (3)考え、学んだことを踏まえて自分たちにできることを
発表する

4 単元計画の概要【全5時間】

- (1)小集団グループに分け、全学年が入る組織づく
りを行う。
- (2)SDGsの17の目標からいくつか目標を選択し、
どのような課題があるのかを知る。
- (3)日本と海外の取組を調べ、自分たちにできること
は何かを考える。
- (4)小集団グループごとに調べた内容、自分たちで
考えたことを発表する。
- (5)全校集会で研究内容を発表する。

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

- ・学年を超えての探究的な学習ができた。
- ・生徒が主体的に取り組み、発表をすることができ
た。

【課題】

- ・各学年やグループの発表を実践に生かすため、
時数含めて単元構成を改善していく。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・今世界や日本で起こっていることを深く知る
ことができてよかった。
- ・目標に向かっていくためには、自分でできるこ
とやみんなでやらないといけないことがある
んだと感じた。



1 単元名(教科・領域)・学年

「社会課題の探究とその解決策について」
 (総合的な学習の時間・アントレプレナーシップ教育)
 第2学年

2 ESD を通して育みたい資質・能力

- 情報収集力・活用力
- 課題解決能力
- プレゼンテーション力

3 単元の目標

- (1) 職場体験で得た情報から、日本や社会における社会課題を考え、その解決につながる活動や取組を考える。
- (2) 10年後や20年後に担当した仕事かどのような形で存続しているか考える。
- (3) プレゼンテーション(発表活動)を通して、分かりやすく伝える技能を身に付ける。

4 単元計画の概要【全10時間】

- (1) ガイダンスを通して、単元の見通しをもつ。
- (2) 同じ職種のグループを作り、社会課題を見つけ出し、その解決策とアイデアを考える。
- (3) 講演会
(ビジネスアイデアを考える方法について)
- (4) 解決策とアイデアについて、スライドを作成し、発表練習を行う。
- (5) 学年発表

5 本単元を通して得られた成果と課題

【成果】

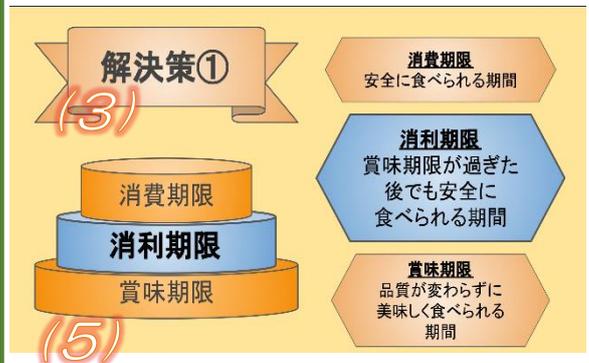
- ・社会的な課題を自分のこととして捉え、10年後20年後を考えて、多くの賛同を得られるように、発表活動を行うことができた。
- ・SDGsに関連した課題を考え、ESDにつなげることができた。

【課題】

- ・社会問題を考えた時に、原因の背景として、「働き手の不足」にしか考えが向かないことがあった。

児童・生徒による学習の評価(意見・感想等)

- ・社会課題を考える中で、「どうせ無理」という考えをなくして、一生懸命考えることが大切だと思いました。
- ・自分が考えたアイデアに多くの賛同を得られたのがとてもうれしかったです。
- ・解決策を考える過程で、様々な業種で新しいことを始めている企業が多くあることを知りました。



「多摩市子どもみらい会議」の メッセージを踏まえた取組

令和5年度「多摩市子どもみらい会議」(令和6年2月9日開催)において、東愛宕中学校区、諏訪中学校区、青陵中学校区の児童・生徒が、「2050年の多摩市のために私たちにできること」をテーマに話し合い、「緑を保全していく 清潔で安心して住める 健幸で安全、地域に根差した取り組みを行う →それが住みやすい多摩市」という一つの提言をまとめました。

このメッセージや各校の提案を踏まえ、地域社会の一員として、まちづくりに参画するため、何をすべきか考え、令和6年度に取り組んできたことについて紹介します。

多摩第一小学校 第6学年 環境に優しい発電について学ぶ 自分たちの力で発電に挑戦する



環境にやさしい発電(再生可能エネルギー)について、より多くの人に関心をもってもらいたい。」そんな願いをもち、自分たちの力で発電に挑戦しました。地域の方のご指導を得ながら、いろいろな発電方法に挑戦しました。

多摩第二小学校 第6学年 再生可能エネルギーについて学ぶ 自分たちの力で発電に挑戦する



昨年はSDGsについて学んだ子どもたち。今年も持続可能な社会を目指して、再生可能エネルギー(太陽光、水力、風力)の発電に挑戦しました。地域の方のご指導を得ながら、試行錯誤をしながら発電の大変さを実感しました。

多摩第三小学校 第4学年 環境問題について自分事として考える 自分たちにできることを考え行動する



多摩市水辺の楽校の方にご協力いただき、乞田川を調査しました。そこから発見した、生物の生態や外来種の問題、ごみ問題について調べ、自分たちにできることを考え、伝え合いました。

連光寺小学校 第3学年

地域の多摩桜の丘学園との交流活動を行い、障害者の理解・啓発を図るとともに自分たちでできることは何かを考え、多摩桜の丘学園の友達や地域に対して活動する



多摩桜の丘学園児童との交流を踏まえて、大谷戸公園のインクルーシブ遊具を選定し、社会で共生することの大切さについて考えました。実際に選定した遊具について地域に向けてPRすることができました。

北諏訪小学校 第5学年
共生の在り方について考える
多摩桜の丘学園との交流



多摩桜の丘学園との交流を通して、「だれもがくらしやすい町づくり」について考えました。障害の有無に関わらず、多様な人々が安心して幸せに暮らすには、相手への理解と思いやりが大切であると気付きました。

東寺方小学校 第4学年
環境問題について学ぶ
自分たちにできるエコ活動を実践する



自然を守っていくために、4年生の私たちにはどんなことができるのか。リサイクルの促進や節電・節水を学校全体に呼びかけたり、生ごみからの堆肥作りに取り組んだりして、一人一人の活動が環境保護につながることを学びました。

南鶴牧小学校 第4学年
身近な環境について考える
芝生管理作業を体験する



校庭の芝生は、保護者や地域の方々の協力によって手入れがされています。4年生はその活動の一環として芝刈り体験をしました。自分たちが使う場所を大切にすることや、自然と触れ合う喜びを学ぶ機会となりました。

聖ヶ丘小学校 第3学年
多様な社会について学ぶ
多摩桜の丘学園との交流



多摩桜の丘学園との交流を通して、障害の有無に関わらず、みんなが得意なことや苦手なことが違うことを学びました。言葉だけでなく、様々な方法で相手に気持ちを伝え、みんなと仲良くできることを実感しました。

西落合小学校 全学年
身近なノートのリサイクルを通して、
環境問題に取り組む



ゲストティーチャーを招いて、環境問題について学びました。一度使った紙を集めて、もう一度、紙にすることができることを知り、代表委員会を中心に、使い終わったノートを集める活動を行いました。

大松台小学校 第3学年
米作りを通して、身の回りの環境について
考える



樹名板を作り、からきだの道の会の方や保護者のご協力を得て、からきだの道に取り付けました。今回で5回目の取組で、歴代の樹名板が並ぶ中、自分たちも参加できたことに誇らしい気持ちを抱いていました。

諏訪小学校 第4学年

環境問題について学ぶ
身近な環境について考え行動する



諏訪地域の公園の環境をより良くするために公園の利点と課題を整理分析しました。公園緑地課の方の協力を得て、使えない遊具を直してもらったり、環境に関するポスターを貼ったりして、公園の課題の解決に取り組みました。

永山小学校 第3学年

地域の商店街の活性化について学ぶ
自分達で考えたアイデアを実践する



「永山商店街について、より多くの人に関心をもってもらいたい。」そんな願いをもち、自分たちの力で地域貢献に挑戦しました。地域の方のご指導を得ながら、活性化につながる取組を実践しました。

瓜生小学校 第5学年

環境問題について知り、自分の考えをもつ
環境を守るためにできることに取り組む



総合的な学習の時間において、関心のある環境問題をテーマに探究活動を行いました。様々な環境問題の原因や現状等を知り、自分たちにできることを考えました。

東落合小学校 第6学年

ゴミ出し活動
地域の方との交流と助け合い活動



「地域の方と仲良くなった!」東落合小学校伝統の地域のゴミ出しボランティア活動。地域の方との関わりから、あいさつの大切さや助け合いの精神、地域の良さを再確認し、地域の一員としての自覚が高まりました。

貝取小学校 第4学年

地域の環境について調べ、まとめる
地域を調査し、安全マップにして発信しよう



グループに分かれ、実際に地域を歩き、危険な場所がないか調べました。それを地図にまとめ、学習発表会で地域の人や保護者に伝えました。自分の住んでいる地域を更に住みよいまちにするため自分たちにできることを考えました。

豊ヶ丘小学校 第6学年

学校林を創るための情報を収集する
学校林の魅力をもんに伝える



テーマを「みんなで創る、みんなでつなげる学校林!」に決定しました。何度も学校林に行き、情報を収集したり整理・分析したりして、未来の自然環境のために何ができるのか考えることができました。

愛和小学校 第3学年

自然の保全とフードロスについて学ぶ
森の観察と清掃、コンポストづくりをす



菜園サポーターに、命の循環の指導を受けながら、活動をしました。「自然の中にある循環やフードロスについて関心をもってもらいたい。」と、落ち葉等でコンポスト作りに挑戦しました。

多摩中学校 第1学年

地域の防災・減災について学ぶ
自助・共助について考え実践する



災害発生時には、自らの安全を守るとともに地域の一員として自助共助に積極的に取り組みたい。そのような姿を目指し、基礎的・基本的な内容を学ぶとともに、体験的な学習を通して地域と協働して取り組む力を高めました。

東愛宕中学校 第3学年

修学旅行で「現代の課題・未来に残したい暮らし・文化・伝統」を探究学習する



第1・2学年で積み重ねてきた地域理解学習を踏まえて、修学旅行の事前・事後学習を行い、現地で見学や工芸体験を通して持続可能な社会を創るためのくらし・文化・伝統の継続・発展について学びました。

和田中学校 第2学年

SDGsについての企業の取組を学ぶ
職場体験を通してSDGsについて学ぶ



職場体験では、多くの事業所等にお世話になりました。各事業所等のSDGsについての取組をインタビューするなどし、事後学習として見聞きした内容を壁新聞にまとめてみました。様々な取組を学び、共有することで、SDGsに対する意識が高まりました。

諏訪中学校 第2学年

企業のSDGsについての取り組みを学ぶ
職場体験を通してSDGsについて学ぶ



職場体験先の事業所でのSDGsの取組について、事前訪問の時のインタビューによって知り、体験中にもSDGsの取組に参加してきました。様々な企業の取組から、SDGsの目標達成への関心、意欲を高めました。

聖ヶ丘中学校 全学年

生徒会主催の地域清掃活動
清潔で住みやすい環境づくりを目指して



生徒会が全校生徒に呼びかけ、集まった有志のメンバーで学校の外周の遊歩道や歩道を中心にゴミや落ち葉を拾う清掃活動を行いました。集めた落ち葉は、堆肥にして、学校の花壇や農園の肥料として活用します。

鶴牧中学校 第1・2学年

地域に暮らす外国人と交流する
自国や地域の文化を見つめ直す



地域に暮らす外国籍の方々に母国の自然環境や文化、経済などについて話を伺い、私たちを取り囲む環境について考えました。資源や自然を生かしつつ、豊かな生活を実現するには、人々の協力や行動が重要だと感じました。

多摩永山中学校 第1学年

人と自然のつながりを考える
主体的に行動し、責任ある行動をとる



田植え体験や飯盒炊飯を通じて、「飢餓をなくそう」や「つくる責任、つかう責任」など私たちがができることを考えました。私たちが食べている食材には、自然の恵みや生産者の方の苦労などが含まれていることを学びました。

落合中学校 第2学年

植物の成長について学びを深めつつ、
自然の力を活用したエネルギー資源に
ついて学ぶ



ゴーヤの栽培を通して、「気候変動」、「陸の豊かさ」について理解を深めました。昨年度の取組を振り返り、よりゴーヤを成長させるために、どうしたら良いか考え、肥料や水のあげ方に着目し、実践しました。

青陵中学校 第3学年

修学旅行先で SDGsについて考える
SDGs学び旅



修学旅行先の奈良県で、持続可能な社会や、自分自身が持続可能な社会の創り手になるために何から始めたら良いか考え、文化財を見学しました。持続可能な社会を創るためには、国際的な協力も必要だということを学びました。

2024.11.6(水)15:15～@ベルブ永山5階教育委員会会議室

多摩市 ESD コンソーシアム連絡会2024(報告)

ESDの更なる充実に向けて ～『2050年の大人づくり』に向けたセカンドステージとして～

ESDでは、「持続可能な社会の創り手」の育成に向けて、子どもたちの学びを支えるための大人同士のつながりが不可欠です。市や学校の取組について共有し、継続した支援をお願いすること、また、参加者同士がつながり、関わり合って連携していくことを目的に、多摩市教育委員会では毎年、「ESD コンソーシアム連絡会」を開催しています。今年度も、ESDを通じた学びを支えてくださる多くの関連団体、企業、大学、都立学校等の皆様に参加していただき、ESD コンソーシアム連絡会 2024を開催しました。

【参加団体・企業・大学等】(敬称略)

- ・株式会社 ベネッセコーポレーション
- ・JUKI 株式会社
- ・国士舘大学
- ・都立永山高等学校
- ・多摩市水辺の楽校運営協議会
- ・楽農倶楽部
- ・東京ガスネットワーク株式会社
- ・株式会社キュアグループ
- ・イオンモール株式会社 聖蹟桜ヶ丘オーパ
- ・都立多摩桜の丘学園
- ・多摩循環型エネルギー協会

計 20名が参加



ESDの充実・発展に向けて(懇談)

連絡会の前半では、各学校の ESD の取組について、多摩市 ESD 推進アドバイザーから説明をさせていただくとともに、ご参加された団体・企業・大学による各学校への支援の内容について共有する時間を設けました。

後半では、「学校におけるESDの充実・発展にそれぞれの立場から支援できること」をテーマに、グループに分かれて参加者同士で話し合いました。都立高校、近隣大学、市政部局からなるグループでは、子どもたちにとって、体験に勝る経験はないのだから、それぞれのもっている強みを生かして、子どもたちと地域をうまくマッチングできるよう連携していくことが大切であるとの意見が出されました。

2050年の多摩市のために私たちにできること ～SDGsの達成のために何をすべきか～

令和6年度多摩市子どもみらい会議 趣旨

令和6年度 ESD 推進校の ESD の実践発表の場でもある「令和6年度多摩市子どもみらい会議」では、「2050年の多摩市のために私たちにできること～SDGs達成のために何をすべきか～」をテーマに協議を行いました。地域社会の一員として意見を表明しまちづくりに参画するため、参加した代表児童・生徒が ESD の取組から学んだことを基にして、多摩市役所職員と共に今からできることを考え、提案とメッセージを発信しました。

第1部 各学校の ESD の取組発表

中学校区の中で各学校の特色ある取組や学習の成果を発表しました。

【発表内容・テーマ】

多摩中学校	地域と取り組む ESD 養蜂活動
多摩第一小学校	再生可能エネルギー
東寺方小学校	ひのきの森プロジェクト 再生可能エネルギー
聖ヶ丘中学校	将来の多摩市・SDGsについて 考え繋げながら ESD の学習に取り組む
連光寺小学校	今カラ カエル 未来 再生可能エネルギー
聖ヶ丘小学校	「未来の聖ヶ丘」プラスバンド活動と地域との関わり
鶴牧中学校	鶴牧中学校の SDGs パートナーシップで目標を達成しよう
南鶴牧小学校	クールジャパンプロジェクト～日本の食文化から食品ロスについて考える～
大松台小学校	小学校の食べ残しについて 食品ロス

第2部 中学校区での協議・意見交換・提案の検討

「2050年の多摩市のために私たちにできること～SDGs達成のために何をすべきか～」をテーマに、学校ごとに ESD の取組から気付いた課題を踏まえた多摩市への提案を行い、多摩市役所職員から情報してもらいながら、中学校区の児童・生徒が共に検討して具体的な提案としていきました。

【各学校の提案】

■多摩中学校区

多摩中学校	<input type="checkbox"/> 環境を守りつつ再生可能エネルギーを増やすために小型・中型の風力発電機を置く。 <input type="checkbox"/> 多摩市の経済成長や地域との関わりを増やすために、学校で作ったはちみつをインターネットやコミュニティセンターで販売する。	【中学校区の提案】 地域の人たちと共に協力したりより良いものを作るために協力したりして、省エネについて広めたりして地形を生かした発電を行う。
多摩第一小学校	<input type="checkbox"/> 再エネと省エネを組み合わせる。 <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギーで走るバスの運行 <input type="checkbox"/> 太陽光パネルの設置 <input type="checkbox"/> 振動発電(聖蹟桜ヶ丘駅前) <input type="checkbox"/> LED 電気の利用	
東寺方小学校	<input type="checkbox"/> 電気をなるべく使わず夏の体育館を使いたい。 (ブラックカーテンや水力発電を使ったクーラーの活用)	

【参加した多摩市役所職員の所属課】

防災安全課、経済観光課、文化・生涯学習推進課、環境政策課

■聖ヶ丘中学校区

聖ヶ丘中学校	□多摩市全体で緊急時の助け合いや市でのつながりを作るために、地域ごとに障害のある方や高齢者の方々などの多様な繋がりを日常的に強める取り組みをする。(例 ブラスバンドを通して交流、地域清掃、マラソン大会、挨拶運動)	【中学校区の提案】 市民の安心安全が続くまちを目指す(緊急時に強く持続的な環境保全) ↓ 地域の特色を生かした発電 各地域内での日常的な交流 (スタンプラリーやあいさつ運動など)
連光寺小学校	□再生可能エネルギー100%を目指すために、まち発電を行う。	
聖ヶ丘小学校	□過ごしやすいまちをつくるために、安心安全なまちづくりに取り組む。例として、障がい者の理解を深める取組、(交通)事故に対する意識を高める活動、継続的なスタンプラリーイベントなど。	
【参加した多摩市役所職員の所属課】 防災安全課、経済観光課、高齢支援課、障害福祉課、都市計画課、道路交通課、環境政策課		

■鶴牧中学校区

鶴牧中学校	□多摩市では高齢化が進んでいるため、様々な世代の方が関わり合えるようなイベントを行う。例えば、昔遊びを通じた子どもと高齢者の関わりなど。	【中学校区の提案】 多摩市の課題は、高齢化が進んでいること、世代間の交流が少ないこと、食品ロスが多いことなので、これらを解決するために多摩市が行う「家族体験農業」というイベントをもっと宣伝していくことを提案します。農家の方の苦労や食品ロスについてのクイズをしたり、実際に農業の体験を行ったりするイベントです。
南鶴牧小学校	□食品ロスを減らすために(給食の)食べ残し食材を学校にいる動物のえさにし、環境に配慮する。その取組をインターネットで発信し、楽しめる活動ができると良い。	
大松台小学校	□(給食の食べ残しを減らすために)給食センターで作っているお米の量を減らしてもらう。 □好き嫌いは個人差があることを考え、楽しく食べたり取り組んだりする工夫があると良い。	
【参加した多摩市役所職員の所属課】 秘書広報課、経済観光課、子ども・若者政策課、高齢支援課、資源循環推進課、学校給食センター		

第3部 全体での提案の共有及びメッセージ作成の協議

小・中学校9校の代表児童・生徒同士が各中学校区の取組や提案を共有した上で、自分たちを含めた多摩市全体での持続可能なまちづくりに向けて発信するメッセージを全員で作成しました。

【提言】

多摩市民一人一人がまちづくりに参加しているという意識をもって行動に移そう。

第4部 市政への提案、メッセージの発信とオブザーバーからの意見

代表生徒が、各中学校区からの提案と協議内容、全体で作成したメッセージとメッセージに込めた思いを全体の前で発表しました。最後に、本会議のオブザーバーである多摩市 阿部市長からのお話や、株式会社 ベネッセ教育総合研究所 小林 一木氏を講師としてお招きし、多摩市みらい会議をご参観いただいた後、指導・講評をいただきました。

講師：株式会社ベネッセ教育総合研究所 小林 一木氏から

ESDを通じた探究学習を基にした対話から、市政への提言をまとめるという合意形成に至るためのプロセスを経験することや、他の人からの意見は自分の見方や考え方を広げる「贈り物」と意識することは大切で、これからの学びにもつながるものと言えます。

子どもたちからの提案については、令和7年9月頃を目途に多摩市としての対応や考えを市の公式ホームページを通じて回答する予定です。





子どもが創る 多摩市の未来
 Education for Sustainable
 Development 実践事例集

Vol.10

多摩市立小・中学校は、全ての学校がユネスコスクールに登録しています。

発行 令和7年（2025年）3月 多摩市教育委員会